

2019(令和元)年度社会福祉法人さざんか会事業報告(案)

1. グループホームの再編

より合理的な運営を期し再編を心掛けた。以下の表にあるように箇所数は1か所減とし、入居者数は維持している。この間、よりふさわしい居住環境の整備としてサテライト型のホームを新たに設けた。

空室のあるホームがあり、入居者募集に手間取りその分の家賃負担が重くのしかかり経済的運営が圧迫したことは事実である。

入居者の望むライフスタイル実現の一翼を担うグループホーム、根底に入居者の意思の尊重が担保されなければならないが、それと安定した事業運営を両立させる方途を継続して探求して行かなければならない。世話人や支援員の人材不足等厳しい環境ではあるが、これからもグループホームへのニーズは確実に増大するのであるから。

	のまのまホームズ	DD ホームズ	野の花	計
2019.4.1 ホーム数	4	11	1	16
定 員	23	47	5	75
入居者数	23	41	5	69
2020.7.1 ホーム数	6	8	1	15
定 員	31	34	5	70
入居者数	31 *内1名サテライト利用	33	5	69

2. 『魔法のランプ』の事業拡大

放課後デイサービス事業の開設を目標に検討したが、それ以前にランプの経済状態が大変厳しいものとなった。登録ヘルパーの新規採用が難しく、居宅事業自体で収益を出しながらの事業展開は到底無理な状況となる。職員の配置転換や退職等で本体事業を縮小せざるを得ず、とても新規事業への取り組みは不可能となる。

本体事業を今後どのようにしていくか、が専決課題。

3. 相談支援事業における相談支援員の増員

各事業所共に思うような人材の確保が難しく、中々兼務の体制を作ることが出来ない状況である。相談支援専門員を増員することにより事業自体の活性化や収入の増を図るが、思うように進展していないのが現状である。

4. 職員の確保と育成

2019年4月に9名の新人職員を迎えることが出来た。この他、年間を通して継続した採用が為されている。全ての事業がつつがなく遂行されるに

足りる人材を確保するに、正に薄氷を歩く思いであるが…。

5. 積極的な人事異動及び交流の促進

異動希望を受け若干名の配置転換は行われたが、積極的と評価するには程遠い現況である。人事異動や事業所間の交流を通じて事業所体質の新陳代謝を図りたいが、枯渇気味の人材状況から停滞は否めない。

6. 防災対策の充実

2019年度は計画のとおり3回の全体防災会議を催すことが出来た。安全な避難や防災体制の構築に向けて、各回テーマを設けて各事業所から情報交換や点検等体制強化に努める。

7. 船橋市手をつなぐ育成会とのパイプ

予定された年間2回(元年7月16日・2年2月21日)の意見交換会を実施した。法人の設立母体である育成会とは常々意思の疎通を図り協調しながらの活動を心掛ける。

8. 安定した法人運営のために

より安定した運営を期し、主に財政的な基盤を強固なものにしたいとの思いからの計画であった。ここに来て、国が設定した各種事業の報酬(単価)自体の問題、定員や利用率の問題、年々増加する人件費や委託費等の問題等直面する課題が明確になりつつある。

私たちの事業を営利の観点からのみ捉えることは憚られるが、事業を安定したルールの上を走らせるに、必要な視点と取り組みは欠かせない。

【各種会議の開催】

NO	会議の名称	開催回数	開催日	備考
1	評議員会	3	6/14 11/13 3/26	内1回書面
2	理事会	5	5/29 6/14 8/2 11/13 3/22	内2回書面
3	法人全体施設長会議	3	5/27 11/5 3/17	
4	船橋圏内施設長会議	16	4/3 4/16 4/26 5/13 6/26 7/26 8/14 8/30 9/27 10/11 10/21 11/8 12/2 12/27 1/28 2/13	
5	サービス管理責任者会議	11	4/22 5/28 6/25 7/23 8/27 9/27 10/1 11/5 12/3 1/7 2/4	
6	サービス向上委員会 (虐待防止委員会)	10	4/18 5/14 6/18 7/24 8/28 10/24 11/21 12/17 1/23 2/17	
7	法人全体事務職会議	3	4/19 7/26 11/27	
8	防災会議	3	6/21 11/8 2/14	

【法人企画研修会等の開催】

NO	研修の名称	開催回数	開催日・テーマ・講師等	備考
1	合同研修運営委員会	10	4/17 5/15 6/19 7/24 8/21 9/18 10/16 11/20 12/18 2/19	
2	全体研修会 (虐待防止研修会)	4	第1回 4/6 「私たちにできたこと、そしてこれから」 宮代理事長より 第2回 6/29 「保護者・ご家族からのメッセージ」 *船橋市育成会会員ご家族のお話し 第3回 10/21 10/29 及び 11/30 ① 児童発達支援センター職員対象 「感覚と運動の高次化理論を手掛かり にした子供理解と支援」 講師 淑徳大学 池畑美恵子氏 ② 成人施設職員対象 「事例検討会」 第4回 1/25 「行動障害の理解と支援、虐待について」 講師 睦月会理事長 綿 祐二氏	
3	新人職員研修会	5	第1回 5/22 「発信しよう、今の自分」 第2回 9/25 「地域生活支援とは」 第3回 11/27 「事業所紹介・事業所自慢」	8名参加 々 々
4	2年目合同職員研修会	3	6/11 8/15 10/8 「専門職としての知識と技術の扉を開けよう」	12名 参加

令和元年度
社会福祉法人さざんか会
事業報告(統一版)

事業所名〔けいよう〕

(1) 利用者さんの状況と高齢化・重度化への対応について

今年度は、特別支援学校を卒業された方 1 名を迎え、定員 40 名、契約者 47 名でのスタートとなりました。年度途中には、長期に亘り欠席されていた方が他の法人のグループホームに入居されることになり、今年度末には契約者数は 46 名となりました。

利用者さんの高齢化・重度化は更に進んでいます。昨日までできていた事ができなくなったり、次の行動に移れず声掛けを待っていたり、転倒も増えています。体力的にも低下が見られ、散歩に行く回数や時間を減らしたり、睡眠のリズムが整わず、活動に参加できないため横になる方も増えてきました。そのような中で大きな事故や怪我に繋がらなかった事は、職員一人ひとりが利用者さんの日々の変化に気付き、情報を共有してくれているからだと思えます。また、高齢化・重度化に伴い体調を崩しやすくなったり、体調不良での欠席が長期化したりする等で利用率の低下も進んでいます。

利用者さんの高齢化も課題ですが、同時に親御さんの高齢化も年々顕著になっていて、お一人おひとりに合わせた対応が求められています。同時にご自宅での生活も厳しくなっており、入所施設やグループホームの利用を希望される方も増えてきています。今まで以上に相談支援専門員とも連携を密にして、利用者さんご家族が地域で安心して暮らせるように支援していく事が必要です。

(2) 送迎について

1 名の利用者さんが、下半身の機能低下から車を乗降する際に足が上がりなくなってしまい、車椅子で乗降しなければならなくなりました。そのため、送迎コースを 1 つ増やしリフト車での送迎を開始しました。また、ご家族のご事情でバス停までの送迎がご自宅の玄関前までの送迎になり、一部コースを変更しました。

送迎コースについても、今後ご本人やご家族の事情により変わって行く事が予測されます。しかし、車の台数も職員数も今現在でもかなり厳しい状況にあり、どこまで事業所で対応できるのか今後の大きな課題でもあります。

(3) スキルアップを目指して

今年度は、外部の研修に行く機会が昨年と比べかなり少なくなりました。特に、後半は職員 1 名が産休に入りましたが、職員の補充もできず、これまで以上に人手が足らなくなり、研修に参加する事が難しくなりました。当日にキャンセルしてしまう事もありました。

研修に参加した時には、その月の職員会議の場で研修の資料を基に、研修報告をしてもらい、研修に参加できなかった職員にも情報の共有を図りました。

(4) 地域とのつながり

今年度も地区社協の会合には可能な限り出席し、顔の見える関係作りを心掛けました。11月には公民館で行われる「ふたわ福祉まつり」に参加させていただきました。今年度の途中から長い間続けてきたフラダンスを諸事情で止める事にして、メンバーはそのままに新しい「プレリズム（脳トレ+ストリートダンスをミックスしたもの）」をスタートさせ、そのダンスが初のお披露目となりました。例年よりも会場は盛り上がり、とても楽しんで参加する事ができました。

恒例だった「秋まつり」については、今年度から利用者さんがみんなで楽しめるものに形を変えようと色々検討していましたが、なかなか準備が整わず今年度は断念することにしました。来年度、再検討していきたいと思います。

(5) 事業所内広報紙「ひびき」の発行

今年度も年5回定期的にご家族向けに「ひびき」を発行する事ができました。年度の一番始めの号は、職員紹介を特集しているので、顔と名前が一致できて良いと毎年楽しみにしてくれています。また、他の紙面については連絡帳や口頭では、なかなか伝えきれない日頃の活動や行事の様子等をご家族にお伝えしました。ご家族からは、好評をいただいていますので、来年度も継続していきます。

(6) 厨房業務委託について

株式会社メフォスに厨房業務を委託しています。今年度はそれまで2年間勤務していた栄養士さんが変わりました。しかし、大きな混乱もなくスタートすることができました。今年度も2ヶ月に1回給食会議を開催し、栄養士さんと職員で意見交換等しました。今後も利用者さんに美味しいと思っただけの給食を提供してもらえるように情報を共有したり、確認等を行っていきたいと思います。

(7) 大規模改修工事について

「けいようが二和の地に平成19年6月に移転してから、もうすぐ13年を迎えようとしています。2~3年前より、少しずつ建物に不具合が出始め、毎年部分的な修理等が必要になってきました。また、高齢化に伴い設備面でも様々な問題が出てきました。その事を受けて来年度から改修工事を行う事にしました。昨年8月から今年1月末にかけて設計会社や設備会社等と私、及びサービス管理責任者、他現場の職員1名を加え定期的に会議の場を設け、改修箇所の検討を行いました。改修工事は、工期を5期に分け中庭に仮設のプレハブを建て、プレハブに移動しながら順番に改修していく事にしました。仮設のプレハブ設置は6月下旬からスタートしますが、実際の建物の改修工事は8月3日からスタートする予定です。約半年間の工事になり、その間利用者さんには色々のご不便をかけてしまうと思いますが、事故のないように工事関係者の方々と連携をし、無事に改修工事を終え、今よりも快適な日中活動の場所を提供していきたいと思います。

(8) 新型コロナウイルスにおける影響

今年2月から世界規模で新型コロナウイルスの感染が広がりました。事業所においても感染予防に努め、毎朝の健康観察、マスクの着用、手洗い・消毒の徹底換気等に取り組みました。しかし、日に日に感染者数が増えて行く中で、いつ利用者さんが、職員が感染するかわからず、緊張と不安の連続でした。感染予防に最も重要とされている3密を避ける事も厳しい状況で、狭い車での送迎、食事やトイレの介助、散歩の支援等々、利用者さんと密接にならざるを得ません。感染のリスクは伴います。しかし、毎日楽しみにして通ってくださる利用者さんの事を考えると、できることをやり日常生活を維持していくしかないという想いで現在に至っています。

3月においては保護者会や職員会議は3密を避けるため中止しました。また日中活動においても、散歩はできるだけ少ない人数で行く事、雨天の場合は今まではショッピングモール等に出掛けていましたが屋内施設への外出は禁止としました。昼食は、食事の介助は今まで通り行っていますが、職員と一緒に食事は摂らないような体制を作りました。

まだ、暫くはこのような状況が続くとは思いますが、利用者さんにできるだけ支障がないように配慮しながら、感染予防に努めていきます。

1. 職員体制と人材確保(常勤換算数)小数点1位四捨五入

	管理者	サビ管等	支援員・世話 人・保育士等	看護師	調理師・ 栄養士	その他(運転 士等)	計
31年度当初	常勤1	常勤1	常勤9 非常勤5 (2)	非常勤1 (0.1)	(株)× フォースに 委託	非常勤6 (3.1)	常勤11 非常勤12 (5.2)
男子			常勤4 非常勤0 ()			非常勤5 (2.1)	常勤4 非常勤5 (2.1)
女子	常勤1	常勤1	常勤5 非常勤5 (2)	非常勤1 (0.1)		非常勤1 (1)	常勤7 非常勤7 (3.1)
計	1	1	14 (11)	1 (0.1)		非常勤6 (3.1)	23 (14.2)
年度中増減			常勤-1 非常勤0			非常勤-1 (-0.1)	常勤-1 非常勤-1 (-0.1)
男子						非常勤-1 (-0.1)	非常勤-1 (-0.1)
女子			常勤-1 非常勤0				常勤-1
計			常勤-1 非常勤0			非常勤-1	常勤-1 非常勤-1 (-0.1)
令和2年度 当初	常勤1	常勤1	常勤7 非常勤5 (2.5)	非常勤1 (0.1)		非常勤5 (3)	常勤9 非常勤11 (5.6)

*非常勤職員、臨時職員、パート職員については人数を()内に別記する。

2. 施設等利用者の状況

(1) 利用契約者

利用事業名	生活介護	就労継続B	児童発達支援	計
定員	40			40
31年度当初契約者数	47			47
年度内新規契約者数				
年度内解約者数	1			1
年度末契約者数	46			46

(2)利用率

利用事業名	生活介護	就労継続 B	児童発達支援		計
年間延契約者数	11,559				11,559
年間開所日数	249				249
年間延利用者数	9,123				9,123
利用率	84,4%				84,4%

(3)利用者の年齢区分(令和2年3月31日時点)

年齢区分	～ 20	21～30	31～40	41～50	51～	計
男子	1	7	5	8	7	28
女子	1	3	5	4	5	18
計	2	10	10	12	12	46
構成比率	4%	22%	22%	27%	27%	100%

(4)利用者の障害程度(支援)区分(令和2年3月31日時点)

区分	2	3	4	5	6	計
男子		1	5	13	9	28
女子		2	7	4	5	18
計		3	12	17	14	46
構成比率	0	6.5%	26.1%	34.8%	32.6%	100%

(5)援護市町村区分

市町村区分	船橋市	その他		計
		県内	県外	
男子	27		1	28
女子	18			18
計	45		1	46
構成比率	97.8%		2.2%	100%

3. 保護者の状況

保護者区分	親			兄弟姉妹	その他親族	その他	身寄り無	計
	両親	父のみ	母のみ					
男子利用者	17	1	6	3			1	28
女子利用者	10		7	1				18
計	26	1	13	4			2	46
平均年齢	67.1	66.7	67.4					
最高年齢	93	87	93					

4. 職員研修について

ア、 法人事業所内研修

研修会名	対象者	実施日	参加者	備考
法人合同研修	支援職	4月6日	10名	
		6月29日	10名	
		11月30日	10名	
		1月25日	9名	サービス向上委員会主催
新任研修	該当者なし			
2年目研修	2年目支援職	6月11日	2名	
		8月15日	2名	
		10月8日	2名	

イ、 外部団体等主催研修への参加

主催団体名	研修会名	実施日	参加者	備考
千葉県社会福祉協議会	接遇マナー研修	5月17日	1	
//	//	6月21日	1	
//	権利擁護研修	8月2日	1	
	安全運転管理者研修	8月7日	1	
千葉県社会福祉協議会	アンガーマネジメント研修	9月26日	1	
千葉県社会福祉事業団	認知症セミナー	10月24日	1	
千葉県社会福祉協議会	摂食・嚥下障害ケア研修	12月3日	1	
損害保険ジャパン日本興亜株式会社	福祉施設におけるハラスメント防止セミナー	12月3日	1	
千葉県社会福祉協議会	人事・労務管理研修	12月12日	1	
NPO法人船橋福祉相談協議会	障害者虐待防止研修	2月14日	1	
船橋障がい者地域福祉連絡会	第4回研修会	2月14日	1	

5. 事故の発生について *ヒヤリハットを除く

NO	発生年月日	事故の内容	今後の対応	行政への届け出	備考
1	R2、1、28	機嫌よくソファに座っていたところ突然頭上のブラインドを掴み引っ張ってしまい、指先を数か所切ってしまう。	予測していない事だったので、今後そのような行動があることを念頭におき、ご本人から離れる時は周りの環境に配慮する。	無	

令和元年度
社会福祉法人さざんか会
事業報告(統一版)

事業所名〔北総育成園〕

2019（01）北総育成園事業総括

2019年北総の1年を振り返ります。4月30日までは平成、5月1日からは令和。昭和49年（1974）年「親亡きの後、わが子が安心して暮らせる場所」の親の願いを乗せて 北総開園。45年目の坂道を上りました。時代は大きく変わり、福祉制度も整ってきたと言いながら、根底にあるのは“切ないちちはの願い”は今も昔も不変。

その利用者の平均年齢は56才。皆、歳を取りました。人間は永遠に生きることは出来ません。この人たちも同じこと。だんだん高齢化の兆候が顕在化し、個人差はありますが介護、医療、ちちはの死、成年後見、見取り、一人一人に合わせていろいろな状態が遠い先でなく今、その準備が求められるようになっていきます。

今年一年の間で4人の北総利用者が亡くなりました。最後は、北総を離れ療養病棟を持つ病院でお世話になる形でした。北総は病院ではありません。口から物が食べられなくなったりで、最後はどうしても医療的な治療が必要になります。最寄りの病院を頼るしかありません。そんなケースで4人の利用者は生を全うしました。一人一人、一生懸命に生きた人生でした。

そんな中で、今年も何とか8つの作業班を維持。“働くこといきること”の日中活動を整え、その仕組みの中で一日一日を重ねました。

無理は出来ないことが前提。まず、作業場に行くことが大切。あとは自分なりの“役割と出番”の中で友達と仲良く時間を過ごす。

2月の作業班決算では全体の粗利益は500万円。一時の四分の一。引き算すると殆ど利益はありませんが、それでも500万円の経済活動は立派だと思います。

今年も7月には朝顔、11月にはシクラメンと陶芸・紙工芸の干支人形を松戸徹 船橋市長さんに届けることが出来ました。保護者、ボランティアを動員してのドクダミ採り、農耕班の切干大根。林産班の4000本の椎茸作り。それぞれの班で利用者はよく頑張ってくれました。

5月の第45期北総の里村長村議員選挙では80才の山本泰三さんが選ばれました。日本のどこかの村と一緒に人材が枯渇。80才の長老が一年間北総の為に頑張りました。

地球温暖化で異常気象が世界中で起こっていますが、今年9月8・9日に千葉県に上陸した台風15号。風速50mの暴風雨となり大きな被害をもたらしました。園も4日間停電。非常食で急場を凌ぎました。70年生きて来てこんな台風は初めてでした。

何とか一年が終わろうとした、3月28日、北総は大きな災難に見舞われました。新型コロナウイルス感染症集団感染。このことは29日全国紙一面を飾り、TV報道されました。利用者・職員の多くが感染し、園の事業運営は自力では不可能。このことは別に報告致しますが、45年かかって営々と作り続けてきた北総の文化活動、作業活動は0から作り直さねばならないような痛手を受けました。が、今回のこのコロナ禍に全国の多くのご支援と励ましを頂きました。そのことを心の於いて、北総の立ち直ったその後をご報告していくことが求められます。

【文責 武井 敏朗】

2019 (01) 年 (2019.4月~2020.3月を振り返る)

4 / 1 (月) 19 年度始業式

25 (木) 一日外出・茨城ひたちなか海浜公園

28 (日) 第 81 回前期保護者職員懇談会 黄金週間外泊 (4/28→5/6 の期間)

5/1 (日) より元号が平成から令和となる

5/16 (木) 第 46 代村長選挙投票日。新村長には山本泰三氏

25 (木) 第 5 回須賀山城開山祭

6 / 6 (木) 船橋明社 23 名ドクダミ採りボランティアが今年も来てくださった。

13 (木) 保護者 30 名、今年もドクダミ採りボランティア・韓国弁当の日。

20 (木) →一週間の間に利用者 3 名、別の病院に入院。それぞれ軽症で退院する。

29 (木) KE さん栗源病院で亡くなる。

7 / 3 (水) 香取消防署招聘・総合防災訓練実施

8 (水) 船橋市指定管理意見交換会

12 (金) 今年も園芸班の朝顔を松戸船橋市長に届けることができた

18 (木) しもふさ学園見学研修

27 (土) 笹川夏祭り (地元根方地区が祭り当番でそのお手伝いをする)

8 / 2 (金) 前期終業式・村議会主催納涼ビアガーデン

5 (月) FM (70 才) 旭中央病院にて白内障の手術。上手く成功。人生明るくなった

11 (日) →18 (日) お盆外泊期間。日数は違うが約半数の利用者は帰宅。

※この間、7 月は愚図ついた天気、8 月はうって変わり猛暑が続いた。

9 / 8 (日) 9 (月) 台風 15 号千葉を襲う

今まで経験したことがない暴風雨。風速 50m 園は 4 日間停電 非常食を利用

10/11(金) →10/14 (月) 10 月外泊

11/ 2 (土) 第 82 回後期保護者職員懇談会

※11 月は各種イベントで北総製品を販売。高齢化を引き受けながら “働くこと生きること”
の役割と出番のある暮らし。

12/29 (日) →1/6 (月) 年末年始外泊。約半数の利用者が帰宅。

R2 1/6 (月) 恒例鯉屋旅館利用者保護者職員合同新年会

1 / 15 (水) 16 (木) 一年のまとめ 利用者個別総括はインフルエンザ予防の為、急遽中止

2/ (1974)昭和 49 年から継続してきた狩野式運動能力検査昨年度で終了宣言

尼子式老化度検査も同時終了宣言 (資料は研究委員会でもまとめ後日報告)

2 / 3 (月) 4(火) 武漢で発生したコロナウイルス世界に広がる。日本も巻き込まれる。

2 / 16 (日) 17 (月) 19 (水) 20 (木) 予定していた作業班旅行は中止

3 / 15 (日) → 22 (日) 春休み外泊 コロナウイルスを考慮し急遽中止とする

それに合わせた保護者説明会も中止。

3 / 28 (土) 当園、新型コロナウイルス集団感染

1. 職員体制と人材確保(常勤換算数)小数点1位四捨五入

	管理者	サピ管等	支援員・世話人・保育士等	看護師	調理員 栄養士	その他(運転士・事務等)	計
元年度当初							
男子	1	(非)1	常勤 18 非常勤 5(2.5)	()	()	()	常勤 19 非常勤 6(3.4)
女子		1	常勤 15 非常勤 21(12.5)	1 ()	4 ()	2 ()	常勤 23 非常勤 21(12.5)
計	1	1(0.9)	常 33 非 26(15)	1	4	2	常42非27計69
年度中増減							
男子			常勤 1減 非常勤 (1減)	()	()	()	-1 -1(0.5)
女子			常勤 2減 非常勤 4減	()	()	()	-2 -4 (2.4)
計			常 1 非 1				常-3非-5計-8
2年度当初	1	1 非 1(0.9)	常勤 30 非常勤 21(12)	1 ()	4 ()	2 ()	39 22 (12.9)

*非常勤職員、臨時職員、パート職員については人数を()内に別記する。

2. 施設等利用者の状況

(1) 利用契約者

利用事業名	生活介護	就労継続 B	入所支援	計
定員	75名		75名	
令和元年度当初契約者数	73名		71名	
年度内新規契約者数	3名		1名	
年度内解約者数	1名		2名	
年度末契約者数	75名		70名	

(2) 利用率

利用事業名	生活介護	就労継続 B	入所支援	計
年間延契約者数	73名		71名	
年間開所日数	270		365	
年間延利用者数	19,582名		25,202名	
利用率	98.1%		96.6%	

(3) 利用者の年齢区分(令和2年3月31日時点)

年齢区分	20才未満	21～25	26～30	31～35	36～40	41～45
男子			1	3	2	2
女子		1	2	3	0	4
計		1	3	6	2	6
構成比率		1.4%	4.2%	8.3%	2.8%	8.3%

46～50	51～55	56～60	61～65	65歳以上	計	平均年齢
15	5	4	10	4	46	52.8
1	3	3	2	7	26	53.1
16	8	7	12	11	72	52.9
22.2%	11.1%	9.7%	16.7%	15.3%	100%	—

(4) 利用者の障害程度(支援)区分(令和2年3月31日時点)

事業名(生活介護)

区分	3	4	5	6	計	平均区分
男子		1	14	31	46	5.63
女子		2	8	16	26	5.46
計		3	22	47	72	5.57
構成比率		4.1%	30.6%	65.3%	100%	

事業名(入所支援)

区分	3	4	5	6	計	平均区分
男子		1	14	31	46	5.63
女子		2	8	14	24	5.41
計		3	22	45	70	5.55
構成比率		4.3%	31.4%	64.3%	100%	

(5) 援護市町村区分

市町村区分	船橋市	市川市・習志野市・鎌ヶ谷市・八千代市	東庄町・銚子市・香取市・旭市	その他		計
				県内	県外	
男子	35	3	4	4		46
女子	12	2	2	6	4	26
計	47	5	6	10	4	72
構成比率	65.3%	6.9%	8.3%	13.9%	5.6%	100%

3. 保護者の状況

保護者区分	親			兄弟姉妹	その他の親族	その他	身寄りなし	計
	両親	父のみ	母のみ					
男子利用者	15	2	10	11	6		1	45
女子利用者	6	3	2	11	3		1	26
計	21	5	12	22	9		2	71
平均年齢		73.8	73.6					
最高年齢		92	94					

4. 職員研修について

ア、 法人事業所内研修

研修会名	対象者	実施日	参加者	備考
新任研修会	新任職員	平成31年4月1日	3	
虐待防止研修会	全職員	平成31年4月1日	35	生活支援の基本 差別禁止法
医務講習会	全職員	平成31年4月から 令和元年6月まで	40	歯磨き指導 (11回)
職員研修	全職員	令和元年7月18日	22	菜の花会
職員研修	全職員	令和元年12月25日	35	医務マニュアル 働くこと生きること 老いの支援について

イ、 外部団体等主催研修への参加 (*詳細は事業報告書にて)

主催団体名	研修会名	実施日	参加者	備考
千葉県知的障害福祉協会	「虐待防止及び身体拘束廃止」応 用行動分析の基礎研修 虐待防止への取り組みと整理・確 認し現場でどう広めていくかを 学ぶ研修会	令和元年6月5日	3	
		令和2年1月30日	2	
千葉県障害福祉事業課	強度行動障害支援者研修 支援者養成基礎研修	令和元年6/28. 7/3	1	
		令和元年9/6. 9/25	2	
		令和元年9/6. 10/4	2	
千葉県障害福祉事業課	千葉県相談支援者初任者 研修	令和元年7月2. 4日 8月26. 27日	1	
主催団体名	研修会名	実施日	参加者	備考

千葉県障害福祉事業課	千葉県相談支援者初任者研修	令和元年7月2日～7月4日	1	
株式会社エフ・エム・アイ 東京本社テストキッチン	臙下食・介護食セミナー in 東京	令和元年8月28日	2	
千葉知的障害者福祉協会	全国グループホーム等 研修会 in 千葉	令和元年8月29日 ～30日	1	
日本知的障害福祉協会	鹿児島全国大会 長崎コスモス会研修	令和元年10月21日 ～10/23	4	
千葉知的障害者福祉協会	自立支援セミナー2020	令和2年1月26日	5	

5. 事故の発生について *ヒヤリハットを除く

NO	発生年月日	事故の内容	今後の対応	行政への届け出	備考
1	令和元年 5月12日	男性利用者の怪我 (右手首骨折)	これからもご本人の障害特性を理解して対応にあたります。全職員に事故の経緯など共通理解をして今後再発防止に努めていきます。	船橋市 千葉県 (届ける)	
2	令和元年 6月18日	男性利用者の怪我 (右手甲怪我・縫合)	職員会議にて、事故の経緯・再発防止、周知徹底。全作業班棚卸、確認。ご家族と連携を取りながら、安全面に十分留意して対応して参ります。	船橋市 千葉県 (届ける)	
3	令和元年 11月11日	男性利用者の右足 指怪我 (骨折)	職員会議にて、事故の経緯・再発防止、周知徹底。全作業班棚卸、確認。ご家族と連携を取りながら、安全面に十分留意して対応して参ります。	船橋市 千葉県 (届ける)	
4	令和元年 12月4日	男性利用者の右耳 怪我 (縫合)	事故の経緯・再発防止、今後の対応について周知徹底。ご本人の障害特性をよく理解して対応にあたります。	船橋市 千葉県 (届ける)	
5	令和2年 2月9日	男性利用者の頭部 怪我 (縫合)	全職員に事故の経緯など共通理解をして今後再発防止に努めてまいります。心身状況や対人関係を十分考慮し、居室を替え生活支援を見直す	船橋市 千葉県 (届ける)	

令和元年度
社会福祉法人さざんか会
事業報告(統一版)

事業所名〔 ゆたか福祉苑 〕

1. 令和元年度事業活動重点事項及び成果

○運営面に関して

今年度より、重症心身障害児者対象の多機能事業を統合する形で、本体の生活介護事業と一本化し、新たなスタートをしました。ご利用いただいている方々にとっては、通所先や利用日の変更などはありませんでしたので、特に問題や混乱を招くことなく、スムーズに移行させていただくことができました。移行に伴い、職員配置上算定可能となった常勤看護職員配置加算と、重度障害者支援加算（個別加算）の算定を5月より行いました。

ご利用者数の増減については、特別支援学校を卒業された方を4月に新規利用で1名お迎えしました。10月に他市の施設へ入所された方1名および年明け1月に市内の施設へ入所された方1名、計2名のご利用契約が解除となりました。登録上の人数は1名減です。

体調変化や疾病による入院・療養で長期にお休みされる方や、コンディション調整のための欠席なども増えており、一日の平均利用者人数も減少傾向にありました。

○相次いだ災害

今年度千葉県は、相次ぐ大型台風によって、かつて経験がないほどに甚大な被害を受けました。9月9日に上陸した15号は、当初早朝までには通過し関東北部あるいは太平洋側へ抜けているものと想定し、念のため1時間遅れでの送迎出発として前日に各ご家庭に連絡をいたしました。ところが、予想よりも速度は上がらず、されど勢力は衰えぬまま上陸しました。よって職員の出勤時間に直撃することとなり、苑周辺の道路も倒木や大きな枝葉が散乱し、とても送迎バスを出せる状況ではなかったため、急遽休苑とさせていただきます。次いで10月12日の19号は、15号よりも更に大型と言われ最大級の警戒が呼びかけられていたことから、本来「秋まつり」を予定していましたが、2週間後に延期することとして、前々日にお知らせをさせていただきました。その延期した10月26日の前日にも、台風21号に由来する千葉県内で10名を超える死者を出すほどの大雨に見舞われましたが、翌日は晴天となり「秋まつり」を実施することができました。急な予定変更や行事の延期により、ご利用者様ご家族様をはじめ、関係各所にもご迷惑をおかけしましたが、ゆたか福祉苑に関してはご利用者様が被害に巻き込まれることもなく、苑内外の損壊や停電等にも見舞われずに過ごすことができ、大変ありがたいことだと感じています。火災及び地震を想定した避難訓練は年間通じて行っていますが、風水害や停電をも想定した上で、備蓄品の確認や事前の安全対策を検討したいと思います。

○研修および職員の取り組みについて

支援の資質向上や専門性を高めるための各種研修会へ、積極的に参加を促していきたいとの思いもありつつ、外出行事や面談などの日程および人員調整の兼ね合いもあり、なかなか容易に組み入れられない状況があります。そのような中、千葉県発達障害者支援センターより、「行動障害者支援サポーター派遣事業」実施のお知らせがあり、実際

の事例対象となっていたただく班の職員と相談しながら派遣要請を行いました。行動障害のある方の支援を専門的に学ばれたサポーターさんが複数回にわたって来訪くださり、客観的な視点からの助言や支援方法の提案を頂くことで、実際に行動の改善が見られたり、支援の手法を学ばせていただきました。

権利擁護と虐待防止に関する研修については、千葉県が主催する権利擁護・虐待防止マネージャー研修にサービス向上委員が、管理者向け研修には管理者がそれぞれ参加しました。

職員間による取り組みでは、より丁寧で相手の方や周囲にとっても心地良い対応や言葉遣いについての意識向上を目的に、昨年度、接遇マナー係が発足しました。規則や押しつけではなく、どのような態度・言葉遣いが心地良いのかということに各々が気づけるような啓発方法を工夫し発信してくれています。今年度は、終礼（10分会議）時に、明るく楽しい出来事や、心温まるエピソードなどを日替わりで発表し合う「にやり・ほっと」報告の提案があり、5月のGW明けから始めました。業務報告や予定確認、事故や怪我の防止を目的とした「ヒヤリ・ハット」報告の共有も大切ですが、最後に「にやり・ほっと」な話題で柔和に一日を締めくくることができています。

職員個人でも、自主的に資格取得を目指したり、通信講座の利用や教材を活用して自発的に学ばれる者もいたり、向上心が感じられています。

○外出やお楽しみ企画

全班対象で行うイベント外出では、新たな試みとして千葉港クルージングが企画され、予想以上に多くの方が希望し、ご参加されました。あいにく強風のため欠航となってしまった回とスケジュールの見立て通りに到着できず乗船できなかった方々には、海辺のドライブ&ランチとしてお楽しみいただくこととなりました。ハイキング、カラオケ、ランチバイキングを選択された方々も、それぞれの企画と行き先で楽しめました。

クリスマス会をはじめ、苑内でおこなうミニ行事も、職員の演出や出し物を中心に皆様が楽しまれている様子が見受けられました。

○その他

- ・一昨年の大規模改修工事により、本館・新館ともに大幅なリニューアルがなされましたが、その間のプレハブ建築&撤去、大型車両や重機の頻繁な出入りによって苑庭が傷んでしまい、凹凸やうねり、ぬかるみが酷い状態でした。この状態を改善しなおかつ職員用駐車場の台数オーバーを軽減するため、ご利用者様の安全面も考慮しGWに期間を定めて、苑庭の全面舗装工事を実施しました。

- ・昨年度末に、南バスは新車となりましたが、これまでさほどトラブルのなかった北バスがバッテリーの不調を繰り返し、皆様には乗車いただく車両の変更を突然お願いしたりと、ご迷惑をおかけ致しました。電気系統のケーブル損傷によるものと判り、ケーブル交換により改善されました。

- ・今年度初めての試みで、検診車による職員向けの健康診断を実施しました。事前の打ち合わせによるレイアウト調整もあってか、比較的スムーズに行えたように思います。

1.職員体制と人材確保(常勤換算数)※小数点1位四捨五入

	管理者	サビ管等	支援員	看護師	調理員・栄養士	その他(運転士等)	計
元年度当初					メリックス(株)委託		
男子 常勤	1	1	8				10
非常勤 (常勤換算)			4 (3.5)			3 (1.1)	7 (4.6)
女子 常勤			12	1		1	14
非常勤 (常勤換算)			6 (4.8)		()	1 (1)	7 (5.8)
計	1	1	20 10 (8.3)	1		1 4 (2.1)	24 14 (10.4)
年度中増減							
男子 常勤		-1	-2				
非常勤 (常勤換算)			()	()	()	1 (-0.4)	
女子			-2 ±0				
			()	()	()	()	
計	0	-1	-4	0		-0.4	-5.4
2年度当初					メリックス(株)委託		
男子 常勤	1		8				9
非常勤 (常勤換算)			4 (3.5)			2 (0.7)	6 (4.2)
女子 常勤		1	10	1		1	13
非常勤 (常勤換算)			6 (4.8)			1 (1)	7 (5.8)
計	1	1	18 10 (8.3)	1		1 3 (1.7)	21 13 (10)

*非常勤職員、臨時職員、パート職員については常勤換算数字を()内に別記する。

2. 施設等利用者の状況

(1) 利用契約者

利用事業名	生活介護				
定員	75				
31年度当初契約者数	89				
年度内新規契約者数	1				
年度内解約者数	2				
年度末契約者数	88				

(2) 利用率

利用事業名	生活介護				
年間延契約者数	22,163				
年間開所日数	248				
年間延利用者数	18,073				
定員に対する利用率	97.2%				

(3) 利用者の年齢区分(令和2年3月31日時点)

事業名(生活介護)

年齢区分	～19	20～29	30～39	40～49	50～	計
男子	0	7	11	28	11	57
女子	1	4	5	13	8	31
計	1	11	16	41	19	88
構成比率	1.1%	12.5%	18.2%	46.6%	21.6%	100%

(4) 利用者の障害支援区分(令和2年3月31日時点)

事業名(生活介護)

区分	3	4	5	6		
男子	0	13	22	22		56
女子	1	2	8	20		31
計	1	15	30	42		88
構成比率	1.1%	17.0%	34.1%	47.8%		100%

(5) 援護市町村区分 (令和2年3月31日時点)

市町村区分	船橋市	千葉市・習志野市・四街道市・八千代市	その他		計
			県内	県外	
男子	54	3			57
女子	29	2			31
計	83	5			88
構成比率	94.3%	5.7%			100%

3. 保護者の状況

保護者区分	親			兄弟姉妹	その他の親族	その他	身寄りなし	計
	両親	父のみ	母のみ					
男子利用者	38	3	11	3	1	1		57
女子利用者	17	1	9	3	1			31
計	55	4	20	6	2	1		88

4. 職員研修について

ア、 法人および事業所内研修

研修会名	対象者	実施日	内容
新任職員研修	新任職員	5/22・9/25 11/27	グループディスカッションおよび講話。
2年目職員研修	2年目職員	6/11・8/25 10/8	グループディスカッション 先輩職員との意見交換
法人内部研修	法人職員	4/6・6/29 11/30	合同研修委員会主催で実施。
		1/25	サービス向上委員会主催
行動障害支援者サポーター派遣事業	支援職員	7/25~12/9 サポーター訪問 4回	行動障害のある方への支援を専門的に学ばれたサポーターさんが複数回にわたって来訪くださり、客観的な視点からの助言や支援方法の提案を頂いた。
防災講習会	支援職員		防火管理者による自主講習会。救出救護の演習。

イ、 外部団体等主催研修への参加

主催団体名	研修会名	実施日	参加者	備考
千葉県知的障害者福祉協会	『虐待防止及び身体拘束廃止』につながる応用行動分析の基礎を学ぶ研修会	6/5	2名	
東京都障害者通所活動施設職員研修会	「これからの福祉情勢と現場に求められる支援」	7/20	1名	
心身障害児総合医療療育センター	医療的ケア看護師講習会	7/27	1名	
千葉県障害福祉事業課	障害者虐待防止・権利擁護研修（障害者虐待防止マネージャー）	10/29	1名	
千葉県障害福祉事業課	障害者虐待防止・権利擁護研修（管理者）	10/31	1名	
船橋障がい者地域福祉研修会	これからの船橋地域における事業所、法人間の関わりを意識することで生まれてくるものとは	2/14	2名	

5.事故の発生について *行政報告事項

NO	発生年月日	事故の内容	今後の対応	行政への届け出	備考
1	R2.3.27	利用者の方が突発的に動かれ、近くにいた方にぶつかり後方に転倒され、金属製のドア枠に頭を打ち付けてしまった。	活動室の入り口付近に人が滞留しないよう、室内レイアウトの調整を行った。	有	
2	R2.3.27	上記事故にともなう通院により、昼食時の服薬の手順が普段通り行えず、職員間の伝達ミスにより別な方の薬を服用させてしまった。	服薬の手順を一時的に変更せざるを得ない場合でも、可能な限り通常の手順に遡って服薬介助を行う。 服薬介助に関して、少しでも違和感や不安がよぎった場合には、即時中断し確認を行う。	有	

令和元年度
社会福祉法人さざんか会
事業報告(統一版)

事業所名〔 のまる 〕

令和元年度事業活動重点事項及び成果

1 施設入所支援

① 社会福祉法人さざんか会「のまる」職員行動基本指針の徹底を図りました。

障害のある方への権利擁護意識について職員間での気づきの研修などを小グループにして実施しました。職員間でのコミュニケーションのずれや報告連絡相談のミスなど、徹底できない部分もあった。職員間でサービス向上委員会が作成した行動指針を読みあうなどして、議論を深める工夫を感じ取っている。

令和元年9月末にあった職員による行為について、虐待が疑われるケースとして市に報告しました。なぜ、利用者を放置したのかとの問いに職員は応えず、逆切れする態度に、職員を信頼しただけに「遺憾」という言葉で言い表すことのできない思いがしました。当該職員は、その後欠勤し退職しましたが、せめて、利用者への謝罪はしてほしかった。これは、職員教育が不十分であることを示しており、大いに反省し改めてのまる全体で人権尊重の意識改革を図るようにしていかなければならないものと考えました。

② 個別ニーズの見直しと検証

個別支援計画に基づく支援を通して入居者(利用者)お一人おひとりに対する支援の質の向上を目指し、ユニットリーダー会議などで検討する機会を設けましたが、ケースワークを行う時間の確保に課題が残りました。今後は、オンラインでのケース検討も行うことが必要と考えその整備を図ります。

③ 職員研修の充実

専門職としての意識と障害のある方への権利擁護意識を深めます。研修は、虐待防止権利擁護や自閉スペクトラムの特性についての講演など専門的な知識の研鑽、支援の実践研修や、意思決定支援など等にも積極的に職員が参加できる体制を整えましたが、研修後の報告会が開催できず、せっかくの研修が積極的に活かされないという課題を次年度は改善する必要があります。年度末に襲われた新型コロナウイルスの猛威で、研修の在り方も今後オンラインなどが主流になると思われ、その対応も検討していく必要性を痛感しています。

④ 健康管理と衛生管理

6月と10月に入所者の健康診断を行いました。今後も日常的な健康管理を怠らぬように努めます。高齢化に伴う体調の変化や身体の変化にも注意深く接し、転倒防止やけがの予防等にも配慮していく所存です。特に歩行面で股関節の老化や骨粗鬆症の懸念もあることから骨密度の検査等も必要な方に受けていただくことも検討しましたが医療機関との調整が難しく、実施は少人数に留まっています。生活習慣病についても、嘱託医と連携してきたが、地域医療機関あるいは大学病院とも必要に応じ通院検査を検討していく。

歯科衛生の向上を目指し、令和元年7月から東京医科歯科大学院講師の先生に毎週水曜日口腔ケアを無料で行っていただいています。今後も、誤嚥性肺炎やインフルエンザの予防のため継続したいと考えます。

年度末の新型コロナウイルスの猛威で、これまでにない感染症対策を余儀なくされ、特に3月27日北総育成園での入所者・職員の集団感染はショッキングなことでした。事業所として感染症対策は手探りで、随時示される、国の指針に則り、船橋市とも相談してきましたが、今

後は、保健所とも連携を行います。集団感染後、「3密」のほか、マスクの着用、手指消毒の徹底を図りましたが、継続して行う必要性を痛感しています。

⑤ 防災対策の見直し

緊急時にできるだけ速やかに避難行動ができるように訓練だけでなく、職種を問わず防災意識の向上を目指してきました。船橋市と法人が災害時の要配慮者への支援について協定を締結し、今後も、地域の福祉避難所として施設機能を地域に開放していきます。

具体的には、のまるのレストランや多目的室の一部を地域の知的障害者の避難場所に、また、1階の作業室の一部を地域の身体障害者の方の避難場所として使用を検討していきます。災害時の対策の一つとして、災害時に飲料水の提供を行える自動販売機の設置を行いました。とりわけ、震度6弱以上の巨大地震や昨年15号・19号の猛烈な風雨による被害は、いつ発生するかわかりません。その備えとともに、災害時の職員招集体制や災害を瞬時に知らせ、災害時の対応体制についても再確認・再点検していく必要があります。

2 生活介護事業

・多様化する個別ニーズに配慮し、利用者が充実感の得られる活動内容及び生活介護の提供に取り組めます。のまるの中期目標を見直す中で、生活介護の利用率が70%程度であり、安定した経営を目指すことがこの数字では達成できないことが判明しました。そこで、他の事業所に通所している方を見直しとともに、入所支援が通過型施設であることを家族会等に繰り返し説明し、無理のない範囲で地域移行をご家族とともに検討していく必要性を痛感しました。ほかの入所施設にみられるように生活介護の利用率が90%台にします。そのためには、3年かけて90%台を目指し、職員体制はじめ様々な面で改善を行います。安定した事業継続を行っていくためにも利用率向上は成し遂げなければならない重要課題と捉えています。

① 生活介護事業所のまる

利用者も年々加齢化し、行動面もゆっくりペースの方が増えてきました。その特性に合致した活動プログラムになるよう配慮してきました。

活動班は、ゆいまーる、テール、コロネ、らぼーる(旧三咲班)の4班に分かれ、個別ニーズに基づいた支援を実施しました。利用率が70%を割っているため、事業所としては利用者を増やす工夫を行い利用率アップについて努力を継続して行います。令和元年度は、夏見特別支援学校や市立特別支援学校にも出向き事業内容を説明する機会を設けてきましたので、継続して行います。

開所時間は、9時から16時としてきました。

活動内容としては、趣味や創作活動、音楽活動、お茶会、軽運動などを行うほか、軽活動として発泡スチロールのリサイクル事業も行ってきました。

② 従たる事業所の休止から再開へ

船橋市三咲 4-16-16 にて定員 7 名の生活介護事業所を運営してきましたが、平成31年2月19日を以って休止することを届け出ました。市からは1年を目途に再開を期待されていますが、利用者のニーズ等を再確認し、必要に応じて検討を続けます。

活動内容としては、趣味や創作活動、音楽活動、お茶会、軽運動などを行いました。

3. 職員体制と人材確保(常勤換算数)*1)小数点1位四捨五入

	管理者	サビ管等	支援員・保育士等	看護師	調理員・栄養士	その他(運転士等)	計
H31年度 4.1当初	1	1	33(29.4)	2 (0.9)	0	2	39(30.8)
男子	1	1	15 (14.)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	17 (14.)
女子	0	0	18 (15.4)	2 (0.9)	0 (0)	2 (1.4)	22 (17.7)
計	1	1	33(29.4)	2 (1.3)	0	0	39(30.8)
年度中増減	0	0	-3	0	0	0	-2
男子	0	0	0	0	0	0	0
女子	0	0	-3 (3)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	-2 (2)
計	0	0	-3	0	0	0	-2
R2年度当 初	1	1	34 (31.9)	2 (0.9)	0 (0)	1 (1)	40 (32.8)
計	1	2	35(30.5)	2 (0.9)	0 (0)	0 (0)	39 (31.4)

*非常勤職員、臨時職員、パート職員については人数を()内に別記する。

人材確保は、急務の課題で、特に年度内に退職されれば、その補充はより困難になってきました。令和元年12月に採用ホームページを作成し、さざんか会ホームページにリンクさせましたが、応募には至っておらず、採用ホームページをどのように学生や求職者に認知していくかが大きな課題となっています。淑徳大学と協働で施設見学ツアーを実施しているが、その継続は引き続き必要だと認識しています。

次年度の検討課題として、のまるの給与体系について他の事業所と同じでいいのか、むしろ北総育成園と同じような給与体系にすることで人材の確保を安定的に行えるよう検討することも必要だと人材確保できない状況下で思うようになりました。

4 施設等利用者の状況

(1) 利用契約者

利用事業名	生活介護	短期入所	入所支援
定員	40名	7名	35名
元年度当初契約数	39名	10名	35名
年度内新規契約者数	1名	3名	1名
年度内解約者数	3名	1名	1名
年度末契約者数	37名	14名	35

(2) 利用率

※ ()は平成 30 年度の数字

利用事業名	生活介護	短期入所	入所支援
年間延契約者数	425 名(425 名)	134(134)	334(334 名)
年間開所日数	260(263)	365	365
年間延利用者数	6527(6434 名)	520	12231(11332 名)
利用率	67%(66%)	20%	95%

(3) 利用者の年齢(令和 2 年 3 月 31 日時点)

年齢区分	20 才未満	20~29	30~39	40~49	50~59	60 歳以上
男子	2	3	10	8	3	0
女子	0	1	4	2	1	0
計	2	4	14	10	4	
構成比率	5%	11%	40%	31%	11%	0%

				65 歳以上	計	平均年齢
				1	27	40.8
				0	8	46
				1	35	41.9
				2%	100%	

(4) 利用者の障害程度(支援)区分(令和 2 年 3 月 31 日時点)

事業名(生活介護)

区分	3	4	5	6	計	平均区分
男子	0	4	8	19	31	5.5
女子	0	0	3	5	8	5.4
計	0	4	11	24	39	
構成比率	0%	15%	21%	64%	100%	

事業名(施設入所支援)

区分	3	4	5	6	計	平均区分
男子	0	3	8	16	27	5.5
女子	0	1	3	4	8	5.2
計	0	4	11	20	35	5.3
構成比率	0%	12%	31%	57%	100%	

(5)援護市町村区分

市町村区分	船橋市	市川市・習志野市・鎌ヶ谷市・八千代市	東庄町・銚子市・香取市・旭市	その他		計
				県内	県外	
男子	24	3	0	0	0	27
女子	7	1	0	0	0	8
計	31	4	0	0	0	35
構成比率	88%	12%	0	0	0	100%

5.職員研修について

ア、 法人事業所内研修

研修会名	対象者	実施日	参加者	備考
新任研修(3回)	支援職	5月22日9月25日, 11月27	各1	
2年目研修(3回)	支援職	6月11日、8月15日、10月8日	各3	
合同研修「保護者の思い」	支援職	6月29日	4	
のまる内虐待防止研修	支援職	8月10日、14日、18日、24日	各4	

イ、 外部団体等主催研修への参加

主催	研修名	実施日	参加者	備考
東京労基連	衛生推進者講習	5月9日	1	
県社協	メンタルヘルス	5月15日	1	
県社協	新任研修	5月17日	1	
県社協	非正規職員スキルアップ	5月24日	1	
発達協会	応用分析の基礎	6月5日	1	
県社協	介護職のコミュニケーション研修	6月18日	1	
県社協	新人研修	6月27日	1	
千葉県	強度行動障害支援者養成研修実践	6月27日、28日	1	
千葉県	強度行動障害支援者養成研修基礎	6月28日、7月3日	1	
県社協	傾聴基礎	7月3日	1	
千葉県	強度行動障害支援者養成研修 基礎・実践	7月3日、4日 7月18日、19日	1	
関東知的協会	関東地区職員研修	7月10日、11日	1	
県社協	キャリアパス研修初任者	7月10日、11日	1	
県社協	キャリアパス研修チームリーダー	7月23日、24日	1	
高崎福祉専門学校	社会福祉士実習指導者研修	7月25日、26日	1	

県社協	介護実技研修	7月26日	1	
国立のぞみ	知的障害者支援基礎	7月28日	1	
千葉県	相談支援従事者研修	7月2日.3日.4日 8月29日.30日	1	
てんかん協会	てんかん基礎	8月1日.2日	1	
県社協	権利擁護	8月2日	1	
県社協	キャリアパス中堅	8月5日.6日	1	
しかくの学校	強度行動障害研修実践	8月17日.18日	1	
県社協	アサーション	8月28日	1	
千葉県	強度行動障害基礎	9月6日.11日	1	
県社協	アンガーマネジメント	9月12日	1	
県社協	ストレスマネジメント	9月24日	1	
しかくの学校	強度行動障害実践	9月26日.27日	1	
千葉県	相談支援現任	10月2日.7日.8日	1	
県事業団	認知症	10月4日	1	
発達障害連盟	自閉症セミナー	10月5日.6日	1	
県労基連	腰痛予防研修	10月17日	1	
全国知的協会	相談支援セミナー	10月15日.16日	1	
三幸福祉	次世代リーダー研修	10月17日	1	
全国知的協会	全国知的障害関係職員研究大会	10月22日.23日 24日	1	
千葉県	強度行動障害実践	11月19日.21日	1	
千葉県	サービス管理責任者研修	11月14日	1	
千葉県適正化委員会	福祉サービス苦情解決基礎実践	12月3日.6日 令和2年1月11日.14日、2月22日	1	

6.事故等の発生について ※ヤリハットを除く

発生日	内容	今後の対応	市への届け出	備考
平成31年 4月9日	トイレに誘ったところ興奮し壁をたたきそのはずみでバランスを崩しリビングのテーブル角に右目をぶつける	興奮させない言葉の方について情報共有する	あり	
令和元年 5月17日	朝、歩行する様子がおかしいので左足を見ると足の甲が腫れているので通院した。	腫れた原因が不明ではあるが、過度な歩行はせず2週間様子をみる。	あり	

5月19日	入浴後左目付近と顎に傷があるので翌日通院。CT を撮るが骨に異常はない。	立ち上がりなど自力で立ち上がろうとすることもあるため両脇を抱えるなど体勢に注意する。	あり	
8月21日	朝、看護師が左手親指付近が紫色になっているので通院する。感染症を疑われ採血し CRP 値を調べる。	黴菌が入らないよう衛生面に注意する。	あり	
9月26日	22 時ごろ自室でどんと大きな音がしたので、職員が駆け付けると床に倒れていた。	救急救命措置をして救急車を呼んだが、5 日後入院先で死亡。	あり	
9月28日	6 時 30 分ごろ自室失便があり、浴室で洗体したが、一人で抱えられず浴室に放置。6 時 50 分ごろ早番職員が気づき、対応。	放置時間が 15 分くらいといえども、職務怠慢。虐待が疑われるケースとして報告。利用者に幸いけがはない。職員間で虐待防止の研修を行う。	あり	
10月31日	右手中指が腫れているのを確認し通院すると第 3 指が骨折。	本人は時折気分高揚があり、興奮された際は、けがをしないよう見守る	あり	

入退院

入院日	退院日	内 容	入院先
平成 31 年 4 月 5 日	4 月 19 日	迷走神経施術	セコメディック病院
令和元年 9 月 8 日	9 月 19 日	鼠経ヘルニア	船橋市医療センター
令和元年 9 月 26 日	10 月 1 日	心不全(死去)	二和病院

令和元年度
社会福祉法人さざんか会
事業報告(統一版)

児童発達支援センター
事業所名〔とらのこキッズ〕

○令和元年度事業活動重点事項及び成果

【安全と安心を基本にした療育と家族支援】【専門職による個別療育】
【給食の提供】【防災・減災】【施設整備・療育環境】【働きやすい環境の整備と人材育成】

これらの課題に際し、最も重要なことは私たちの仕事(療育)は【チームアプローチ】であることを職員間が共有することと改めて考えました。経験の長さや年齢に関することなく、ミッション(使命)の遂行ためには【合言葉】が必要と。

職員会議において【合言葉を持つチームは強い】ことを話し合い、【合言葉】を「安心できる楽しい場所！」を【合言葉】にしました。「安心できる楽しい！」を更に丁寧に具体的に考えていくと7つの項目が出てきました。「安全第一」「家族支援」「楽しい給食」「こどもの気持ちを尊重」「楽しい職場づくり」「楽しい療育」「職員のスキルアップ」(上記の活動重点事項と重なる)。更にそれぞれを細分化して考えていくと「そのためには何が大切なのか」というが見えてきました。職員間でポストイットに考えていることを書き出し、話し合いを重ねていく作業は、自分たちの仕事のコア(軸)になる部分を見つけていく作業になりました。

視覚的に意識していくことは、ミッション(使命)の遂行のために有意義であり、仕事上での困り感や不安感に襲われた時に「軸」に立ち返ることが出来たのではないかと感じました。

年が明けてから海外からの新型コロナウイルス感染症感染拡大に伴い、保護者の方も職員も不安の中の日々となりました。卒園式ができるのか？笑顔で子ども達や保護者の方を送り出せるのか？日々の社会情勢の変化の中で様々なことが脳裏をかすめる日々が続きましたが、その際にも【合言葉】を刻みながら日々の仕事に向きあうことができたと感じています。

職場は生き物です。毎年毎年変化します。新型コロナウイルス感染症感染拡大対策で年度末から新年度に入り、健康に関する不安な影が社会を覆っていますが、そんな中でも職員間の【合言葉】を軸に、この療育施設を必要とする子どもたちと保護者の方、そして働く自分たちのことも大切にしながら(自他尊重の思想)、日々の療育(丁寧な保育)をゆっくりと積み重ねることができればと考えています。

【大規模改修工事の準備】

平成18年から開設14年目となります。これまでもその都度修理等を行ってきた箇所も多くあり、年度当初に大規模改修工事のプランが持ち上がりました。工事費用については、医療福祉機構からの借り入れ、船橋市の社会福祉施設への元金利子補給制度を申請致しました。予定では令和2年の秋から大規模修繕工事となります。空調・電気設備等が主な改修内容となりますが、費用対効果も大きいかと思えます。

予定では3か月の工期となっています。何よりも安全第一でその時期を終えたいと思います。職種に関することなく、【合言葉】を大切に。

(施設長 中川公二)

1. 職員体制と人材確保(カッコ内は常勤換算数) *小数点以下2位を四捨五入

	管理者	サビ管等	支援員 世話人 保育士等	看護師	調理員	その他 (運転手・専門職 等)	計
31年度 当初	常勤 1	常勤 1	常勤 9 非常勤 6 (3.5)	非常勤 1 (兼務)	業務 委託	常勤 1 非常勤 3 (0.7)	常勤 12 非常勤 10 22 (16.2)
男子	常勤 1	0	0	0	0	0	常勤 1
女子	0	常勤 1	常勤 9 非常勤 6 (3.5)	非常勤 1 (兼務)	(委託)	常勤 1 非常勤 3 (0.7)	常勤 11 非常勤 10 20 (15.2)
計	常勤 1	常勤 1	常勤 9 非常勤 5 (3.5)	非常勤 1 (兼務)	(委託)	常勤 1 非常勤 3 (0.7)	21 (16.2)
年度中 増減	0	0	△4	0	0	0	△4
男子	0	0	0	0	0	0	0
女子	0	0	常勤△3 非常勤△1	0	0	0	△4
計	0	0	△4	0	0	0	△4
2年度 当初	1	1	常勤 9 非常勤 4 (2.1)	(兼務)	(委託)	常勤 1 非常勤 2 (0.4)	常勤 12 非常勤 7 (14.5)

2. 施設等利用者の状況

(1) 利用契約者(令和2年3月31日現在)

利用事業名	保育所等訪問支援	児童発達支援	計
定員	--	30	30
3 年度当初契約者数	0	30	30
年度内新規契約者数	0	5	5

年度内解約者数	0	5	5
年度末契約者数	0	30	30

(2) 利用率

利用事業名	保育所等訪問支援	児童発達支援	計
年間延契約者数	—	35	35
年間開所日数	—	250	250
年間延利用者数	—	6,234	6,234
年間平均利用率	—	84.5%	84.5%

(3) 利用者の年齢区分(令和2年3月31日現在) ※児童発達支援のみ

年齢区分	20才未満	21~25	26~30	31~35	36~40	41~45
男子	26	0	0	0	0	0
女子	4	0	0	0	0	0
計	30	0	0	0	0	0
構成比率	100%	0	0	0	0	0

46~50	51~55	56~60	61~65	65歳以上	計	平均年齢
0	0	0	0	0	26	5.19
0	0	0	0	0	4	5.5
0	0	0	0	0	30	
0	0	0	0	0	100%	

(4) 利用者の障害程度(支援)区分(令和2年3月31日現在)

事業名(児童発達支援)

区分	3	4	5	6	計	平均区分
男子					該当なし	
女子					該当なし	
計						
構成比率					100%	

事業名(入所支援)

区分					計	平均区分
男子						
女子						
計						
構成比率						

(5) 援護市町村区分

市町村区分	船橋市	市川市・習志野市・鎌ヶ谷市・八千代市	東庄町・銚子市・香取市・旭市	その他		計
				県内	県外	
船橋市	30	0	0	0	0	30
						100%

3. 保護者の状況

保護者区分	親			兄弟姉妹	その他の親族	その他	身寄りなし	計
	両親	父のみ	母のみ					
男子利用者	24	0	2	0	0	0	0	26
女子利用者	4	0	0	0	0	0	0	8
計	28	0	2	0	0	0	0	34
平均年齢	42.3 歳		31.5 歳					
最高年齢	52 歳							

5. 職員研修について

ア、 法人事業所内研修

研修会名	対象者	実施日	参加者	備考
辞令交付式 理事長講演	支援職員	R1.5.14	職員一同	法人全体研修
療育の基本的視点と かかわりの整理	支援職員	R1.6.11	支援職員一同	内部研修
2 年目職員研修 ①	支援職員	R1.6.29	2 年目職員	法人全体研修
障害を持つお子さんの 母親による講演	支援職員	R1.8.15	支援職員一同	法人全体研修
2 年目職員研修 ②	支援職員	R1.10.8	2 年目職員	法人全体研修
2 年目職員研修 ③	支援職員	R1.10.29	2 年目職員	法人全体研修
感覚と運動の高次化理論を 手掛かりにした子ども理解と支援	支援職員	R2.1.25	支援職員一同	内部研修
障がい者虐待防止&支援について	支援職員	R1.5.14	支援職員一同	法人全体研修

イ、 外部団体等主催研修への参加

主催団体名	研修会名	実施日	参加人数	備考
船橋市子育て支援部 療育支援課	感覚統合法入門講座	R1.7.26 R1.9.20 R1.10.11 R1.11.22 R1.12.13	2名	
公益社団法人 発達協会	子どもと関わる先生のための 家族支援講座	R1.7.28~29	1名	
公益社団法人 発達協会	行動の問題の見方と対応の実際	R1.8.5~6	1名	
船橋市子育て支援部 療育支援課	感覚の偏りへの理解と対応	R1.8.8	5名	
社団法人 日本発達障害連盟	子どもの発達支援と家族支援の 重要性	R1.8.10	4名	
千葉県健康福祉部 障害福祉事業課	障害者虐待防止・権利擁護	R1.10.1	1名	
社団法人 日本発達障害連盟	自閉症セミナー	R1.10.5	7名	
公益社団法人 発達協会	発達障害・知的障害のある子の 保護者について学ぶ	R1.10.19	1名	
千葉県千葉リハビリ テーションセンター	療育支援研修会	R1.11.23	1名	

6. 事故の発生について *ヒヤリハットを除く

NO	発生日月日	事故の内容	今後の対応	行政への 届け出	備考
1	R1年 10月2日	・自由遊び中の保育室にて 寝転んでいる児童につまず き転倒。顎を強打し下の歯 茎より出血あり、前歯にぐ らつきがあったため医療機 関を受診する。受診した結 果、特に治療の必要なく、 様子を見ることになる。	・活動する場所を分け る等、環境を整えること で事故を防いでいく。 ・子どもの行動を予測 しながら、安全に遊べ るよう見守っていく。	あり	
2	R2年 1月30日	・遊戯室にて活動中、1m程 の高さより厚いマットに飛 び降りて遊んでいた際、着 地でバランスを崩す。足首 を痛めた様子あり受診。受 診した結果、特に治療の必 要なし。	・活動の中で設定した 遊具であり、マットな ど安全面には配慮して いたが、見守りが不足 していた。高さのある 遊具の使用時には特に 注意をしていく。	あり	

令和元年度
社会福祉法人さざんか会
事業報告(統一版)

児童発達支援センター

事業所名〔さざんかキッズ〕

1. 令和元年度事業活動重点事項及び成果

◎今年度大きな取り組みとして、個別支援計画作成の手順を「児童発達支援ガイドライン」に基づいて変更する。

今までは、事前に保護者から「お子さんに望む姿」（保護者の要望）をお聞きし、それに基づき、児童発達支援管理者と担任間で目標を立て、個別支援計画を作成。その内容について面談にて保護者と確認するという流れだった。

ガイドラインに、保護者の要望を聞き取ることの重要性が謳われていることを鑑み、保護者の要望を聞き、目標を一緒に考えていく面談を初めに行ない、目標が設定できた後に個別支援計画を作成、配付という流れとなる。

○新しい流れに対する保護者の反応

- ・目標設定のための面談ということで、保護者も少し緊張した様子で面談に参加する様子が見られた。
- ・家と園での様子に違いがあり、保護者が目標を設定することに難しさが見られたこと。
- ・日程的に後期は、前期のモニタリングが出ないうちに後期の目標設定となり、判断がしづらいとのご意見もいただく。
- ・また、面談での話の内容が、目標設定というところでは、普段の様子や困り事への相談の話ができずに終わってしまった様子も見られたので、急遽希望者面談を11月に設定する。

○職員の動き

- ・面談の流れや内容が大きく変わったことで、その準備について職員全体での周知のための会議も設けたが、回数や時間が足りず不安が残るままのスタートとなる。
- ・面談は時間内で終わることが難しく、長引くことも多くみられた。
- ・面談で目標設定がなされているので、支援計画を作成する時間が短縮され、職員の負担が少しでも軽減されないかと期待したが、それは難しかった。

◎個別支援計画の流れを変える事での職員のサポート体制をつくるために、今年度は児童発達支援管理責任者を4名立てる。それぞれ担当クラスを決めてクラス活動、会議、面談に参加し全面的なサポート体制ができたことで、連携がうまくいくところも見られた。

◎職員の働き方

今年度は、「からだであそぼ!」「親子遠足」この二つの大きな親子行事を削除し、また、保護者への写真販売もなくし、職員の負担軽減を図る。時間外の取り組みは軽減された。しかし、保護者からは、「行事を減らすことは残念」「運動発達を見る機会が欲しかった」等のご意見をいただく。

◎研修の充実

- ・淑徳大学の池畑先生を迎え、職員研修ができたのは大変良かった。
特に、児童の発達や療育の活動内容に特化したお話を聞くことができて職員の日常の療育の振り返りとなった。
- ・看護師を中心に緊急対応のシミュレーションを皆で行ない、動きのフローチャートを作成して周知することができたのは良かった。

◎児童の状況について

○元年度4月は知的クラス60名 肢体不自由クラス8名でスタートする。

4月末に、肢体不自由児クラス年長男児1名転居。

6月年少新入園児10名を迎え契約者数は77名となる。

9月に肢体不自由児クラス年中女児1名が病気のため死去する悲しい出来事が起こる。

11月年長男児1名幼稚園に転園。

2月年中男児1名入園（在園児の双子の兄） 年度末の契約者は76名であった。

○園児の安全を守るという事に関しては、通院を要するケガが1件、腕のあざを確認できずに降園させてしまい、保護者からの指摘を受けることがあった。その後、その児の父が来園し管理者と2時間お話をさせて頂き、謝罪する。上記2件は行政にも報告。

2. 職員体制と人材確保(カッコ内は常勤換算数)小数点2位四捨五入

	管理者	サビ管等	支援員 世話人 保育士等	看護師	栄養士 調理員	その他 (運転士等)	計
31年度 当初	1	4	常勤：25 非常勤：9	常勤：1 非常勤：1	常勤：1	常勤：1 非常勤：4	常勤：33 非常勤：14
男性	0	0	0	0	0	常勤：1 (運転委託)	常勤：1
女性	1	4	常勤：25 非常勤：9 (4.8)	常勤：1 非常勤：1 (0.4)	常勤：1 (給食委託)	非常勤：4 (2.25)	常勤：32 非常勤：14 (7.05)
計			常勤：25 非常勤：9 (4.8)	常勤：1 非常勤：1 (0.4)	1 (給食委託)	常勤：1 (運転委託) 非常勤：4 (2.25)	常勤：33 非常勤：14 (7.05)
年度中 増減	0	0	0	0	0	0	0
男性	0	0	0	0	0	0	0
女性	0	0	-3 (産休者3名)	0	0	0	-3
計	0	0	-3	0	0	0	-3
R1年度 終了時	1	4	常勤：22 非常勤：9 (4.8)	常勤：1 非常勤：1 (0.4)	1 (給食委託)	常勤：1 (運転委託) 非常勤：4 (2.25)	常勤：30 非常勤：14 (7.05)

※ その他 … 事務・理学療法士・音楽・心理士・言語聴覚士等を含めます。

※ 保育士等 … 年度当初産休職員1名を含んでいます

3. 施設等利用者の状況

(1) 利用契約者

利用事業名	保育所等訪問支援	児童発達支援	計
定員	0	80	80
31年度当初契約者数	0	68	68
年度内新規契約者数	0	12	12
年度内解約者数	0	2	2
年度末契約者数	0	76	76

(2) 利用率

利用事業名	保育所等訪問支援	児童発達支援	計
年間延契約者数		897	897
年間開所日数	—	251	251
年間延利用者数	—	14.830	14.830
利用率	—	86.7%	86.7%

※児童発達支援の実利用者数による計算

(3) 利用者の年齢区分(令和2年3月31日時点)

年齢区分	20才未満	21~25	26~30	31~35	36~40	41~45
男子	59	0	0	0	0	0
女子	17	0	0	0	0	0
計	76	0	0	0	0	0
構成比率	100%	0	0	0	0	0

46~50	51~55	56~60	61~65	65歳以上	計	平均年齢
0	0	0	0	0	59	5.2
0	0	0	0	0	17	5.5
0	0	0	0	0	76	
0	0	0	0	0	100%	

(4) 利用者の障害程度(支援)区分(令和2年3月31日時点)

事業名(児童発達支援)

区分	3	4	5	6	計	平均区分
男子					該当なし	
女子					該当なし	
計						
構成比率					100%	

事業名(入所支援)

区分					計	平均区分
男子						
女子						
計						
構成比率					100%	

(5) 援護市町村区分 (令和2年3月31日時点)

市町村区分	船橋市	市川市・習志野市・鎌ヶ谷市・八千代市	東庄町・銚子市・香取市・旭市	その他		計
				県内	県外	
船橋市	76	0	0	0	0	76
						100%

4. 保護者の状況 (令和2年3月31日時点)

保護者区分	親			兄弟姉妹	その他の親族	その他	身寄りなし	計
	両親	父のみ	母のみ					
男子利用者	57	0	2	0	0	0	0	59
女子利用者	17	0	0	0	0	0	0	17
計	74	0	2	0	0	0	0	76
平均年齢	40.7							
最高年齢	54							

5. 法人事業所内研修

研修会名	対象者	実施日	参加者	備考
第1回法人合同研修	支援職員	H31.4.6	職員一同	
療育の基本的視点と関わりの整理	支援職員	R1.5.13	職員一同	児童
第1回法人新人研修	新人職員	R1.5.22	新人職員	
第1回法人2年目研修	2年目職員	R1.6.11	2年目職員	1名参加
第2回法人合同研修	支援職員	R1.6.29	職員一同	
第2回法人2年目研修	2年目職員	R1.8.15	2年目職員	2名参加
第2回法人新人研修	新人職員	R1.9.25	新人職員	2名参加
第3回法人2年目研修	2年目職員	R1.10.8	2年目職員	1名参加
感覚と運動の高次化理論を手がかりとした子ども理解と支援	支援職員	R1.10.21	職員一同	児童
第3回法人新人研修	新人職員	R1.11.27	新人職員	4名参加
サービス向上委員会 障がい者虐待防止&支援者について	支援職員	R2.1.25	職員一同	

6. 外部団体等主催研修への参加

主催者	研修内容	実施日		参加者
さざんかキッズ	船橋市西簡易マザーズホーム 見学	5月	23日	2名
船橋市保育管理課	摂食指導研修会①「摂食嚥下について」	6月	6日	2名
船橋市教育センター	学校見学会 「船橋市立船橋特別支援学校 高根台校舎」	6月	10日、11日	5名
さざんかキッズ	摂食指導研修会② 「食べる機能の異常と評価、訓練」	6月	13日	2名
船橋市保育管理課	摂食指導研修会③「摂食嚥下指導の実際」	6月	20日	2名
千葉県	千葉県相談支援従事者初任者研修	7月	2、3日	1名
発達協会	知的障害・発達障害のある子への保育・療育	7月	30、31日	1名
発達協会	ことばの育ちを支援する	7月	26、27日	1名
発達協会	発達障害・知的障害がある子の感覚と認知について学ぶ	8月	1、2日	1名
発達協会	「不器用さ」への理解と支援～家族支援を含めて～	8月	1日	1名
発達協会	基礎から学ぶ発達障害・知的障害 ～領域別の指導の実際～	8月	3、4日	1名
さざんかキッズ	船橋市西簡易マザーズホーム 見学	9月	13日	3名
船橋市療育支援課	感覚統合療法入門講座	9月 12月	20日 13日	1名
音楽療法学会	日本音楽療法学会学術大会 講習会	9月	20～22日	1名
さざんかキッズ	支援学校での看護師役割、一日の流れを知る	9月	30日	1名
さざんかキッズ	支援学校での看護師役割、一日の流れを知る	10月	2日	1名
さざんかキッズ	さかいりハきつずらぶHOPE 施設見学	10月	10日	2名
看護師協会	看護研修会 知的・発達障害児の健康管理・施設での看護的役割	10月	16～18日	1名
さざんかキッズ	スマイルがらす（児童発達、放デイ） 施設見学	10月	17日	1名
千葉県	千葉県児童発達支援管理責任者基礎研修	11月	14日	1名
千葉県身体障害者 福祉事業団	療育支援研修会	11月	23日	1名
さざんかキッズ	船橋市東簡易マザーズホーム施設見学	11月	15日	3名
千葉県	防火管理者講習	12月	4～5日	1名
千葉県	千葉県児童発達支援管理責任者基礎研修（演習）	12月	10、13日	1名

7. 事故の発生について *ヒヤリハットを除く

No	発生年月日	事故の内容	今後の対応	行政への 届け出
1	R1・6・30	<p>降園後保護者より、左腕に大きな痣があることを告げられる。すぐに自宅へ行き確認と謝罪をする。クラスで状況を検証するが、原因となるものは不明。あざの多い児なのでボディチェックをしていたが、この日は私用で早退だったことで、ボディチェックせずに降園させてしまう。園で確認することができず、保護者からの訴えで気づくことになる。</p>	<p>あざができた状況を確認できないことが、一番の保護者の不信感となってしまったので、足元が不安定で、転びやすい児に対して、目を離す瞬間をつくらないようにしていく。 ボディチェックを確実に 行ない、怪我がある場合はきちんと保護者に告げられるよう確認していく。</p>	済
2	R1・9・4	<p>プール活動の後、左腕を動かさない児に気づく。プール時には普通に動かしていた。その後の着替えでラッシュガードを脱がす時に腕が引っ張られたのか？ 通院を要すとの判断で、船橋整形を受診。母が受診先に来てくれたのでそのまま受診・降園となる。もともと肘内障の癖があり、病院で処置をしてもらって治癒。</p>	<p>肘内障の癖があることを、クラス担任・フリー保育士で周知し、介助方法など事前に確認する。 いつ起こったのかわからない状況をつくらないように、職員は園児の動きを常に把握できるよう声を掛け合っていく。</p>	済

令和元年度
社会福祉法人さざんか会
事業報告(統一版)

事業所名
〔笹川なずな工房〕

1. 令和1年度事業活動重点事項及び成果

(1) 施設財政について

当施設の財政状況は大変厳しいものがあります。3年連続の赤字で令和1年度においては第一次補正予算の段階では約900万円の赤字でした。周知のように平成30年の報酬体系の変更から、就労系施設の報酬減は著しく、全国の施設で悲鳴が上がっています。当施設も例外ではありませんでした。令和2年度は資金ショートを起こす恐れもありました。そこで法人本部、北総育成園園長をはじめ幹部、坂本会計事務所様と昨年12月から対応策を協議してきました。しかし、巨額の赤字ですのでその解消は容易ではありませんでした。計画案の練り直しと協議を重ねてきました。結果、人件費の見直し(手当等の点検)、合理的な仕事への仕組みへの転換、細部にわたるまでの予算上の無駄の削ぎ落としをしました。また、新規利用者の発掘等を行い、令和2年度においては、180万円ほどの黒字を見込むことができました。しかし、これは計画であり実際の黒字化は4月にスタートしてから、計画通り実行できるかにかかっています。着実に黒字化を進めていく必要があります。

(2) 作業について〈主として就労継続支援B型〉

令和1年度の作業売上げは21,117,682円(全体)と前年度よりダウンとなりました。それに伴い工賃も16,772円と下がっています。本年度から生活介護事業を開始して、それに伴い、就労継続B型利用者の減少と職員も生活介護事業のため作業を行う時間が減っています。当施設は令和1年度より、作業中心主義から脱却して、障害の重い人たちの支援を厚くする体制を取る方向に舵を切ってきたので、このことは既定路線ではあります。ただ地域からのパンやジャムに対する要望は強いものがあるので、作業をすることで成長する利用者は作業を。手厚い介助が必要な人には生活支援をとメリハリのある支援をしていきます。

(3) 就労支援について(就労定着支援も含む)

本年度は残念ながら就職者はいませんでした。積極的に地域の就労説明会やハローワークの研修会に参加したのですが、実を結びませんでした。千葉セルプ主催の各施設の就労有望者を表彰された利用者がいて、本人はかなり就労を意識するようになり、令和2年度の就労を目指します。また、就労定着事業も少数(1名)ながら支援を行ってきました。

(4) 職員のスキルアップ

今年度は3月に非常勤職員(事務職)が1名退職をしました。7年半ぶりのことです。子供に手がかからなくなり、正職として働きたいとの希望があり、適職があったので快く送り出しました。しかし、事務職の手が足りなくなりました。羽生課長を指導事務として応援とし、金銭面から指導全般の支援をしてもらおうと思っています。

福祉は人(職員)の力に負うものがあります。職員の資格の取得を奨励してきました。支援員は大半が介護福祉士の資格を受験して取りました。大切なことは自己向上を目指

すことです。資格を取るためにはそれなりの勉強や努力をしなければ取れません。それだけ仕事を真剣に打ち込む気持ちがある職員であるとの証です。このような職員が揃っていることが当施設の最大の強みです。

(5) 設備について

基本的な建物および作業のための機械は平成23年度からの3年計画で、整備したので今後3～4年は大丈夫と言えます。一昨年度、GH隣接地に北総育成園が建築をした農耕作業場「心田（しんでん）」（27年度に建築）で農産作業班が苺の加工をしています。広くなった分効率の良い作業が出来るようになりました。グループホームを含め統一した外観も笹川なずな工房と一体化したデザインであり「野の花広場」の整備を含めて美観地区と呼ばれるようにしていきたいです。また北総育成園の支援にて、施設裏にトラクター車庫兼道具置場と作業場のビニールハウスを建設しました。作業の効率アップが図れ重宝しています。

但し、車両については老朽化が目立ちます。送迎に利用している「旧ヴォクシー」はすでに走行距離200,000kmを超えています。大切に使っているので（乗車前点検・毎月の点検等）大きな傷や故障は全くありません。とはいえ、走行距離が多いので補助金を利用して入れ替えを検討しています。

(6) 地域との関係について

地元東庄町は人口が1万4千人の小さな町です。農業以外にこれといった産業はありません。その中でイチゴは一番の特産物です。その中で、東庄町ふるさと納税の返礼品として当施設のイチゴジャムセットが選ばれました。まだ注文の数は少ないですが、地元の一員として地域とともに生きる姿勢を大切にしていきます。

(7) 情報公開

本年度も保護者と施設が協力して、施設運営をしていく為に、毎月1回以上施設発の「お知らせ」を発行してきました。利用者の近況やめまぐるしく変わる福祉制度をその都度情報を提供してきました。当施設は利用者も字を読める人が多いので、毎月の予定も休業日は赤印、特別行事は黄色印をつけ分かりやすい表記になっており、利用者にとっても大切な情報源となっています。

(8) 生活介護への移行

生活介護事業を本年度からスタートしました。定員は11名としましたが、本年度は7名（年度当初は6名）と順調とはいきません。元々当施設は働くことを中心に暮らしを組み立てていたため、利用者のすべての人が、作業を目的に作業をするために毎日通ってきました。この方向性の転換は容易ではありません。しかし上記のように作業をすることが難しくなった現在、生活介護への移行は避けられません。新年度になってコロナ感染対策のため1か月以上事業所を閉めました。これを機会にゼロベースからのスタートです。生活介護の在り方をもう一度立て直していく必要があります。

職員体制と人材確保(常勤換算数)※小数点1位四捨五入

	管理者	サビ管 等	支援員・世話 人・保育士等	看護師	調理員	その他 (事務員)	計
31年度当初							
男子	0.5	0.5	2.5				3.5
女子			5.4	0.1	0.7	1.7	7.9
計	0.5	0.5	8.9	0.1	0.7	1.7	11.4
年度中増減							
男子	なし	なし	なし	なし	なし	なし	0
女子	なし	なし	なし	なし	なし	-0.7	-0.7
計	0	0	0	0	0	-0.7	-0.7
2年度当初	0.5	0.5	8.6		0.7	1	

*管理者とサービス管理責任者は兼務

2. 施設等利用者の状況

(1) 利用契約者

利用事業名	生活介護	就労継続B	備考	計
定員	10	19		
31年度当初契約者数	6	24		30
年度内新規契約者数	1	0		
年度内解約者数	0	1	死去による	
年度末契約者数	7	24		

(2) 利用率

利用事業名	生活介護	就労継続B	備考	計
年間延契約者数	74	283		7,801
年間開所日数	269	269		269
年間延利用者数	1,436	5,855		7,220
利用率	85.1%	91.9%		92.5%
利用率(定員割り)	48.6%	114.5%		107.4%

生活介護は定員を満たしていない。

(3) 利用者の年齢区分 (令和2年3月31日)

年齢区分	20才未満	20~25	26~30	31~35	36~40	41~45
男子	1	6	1	4	0	0
女子		4	3	3	2	1
計	1	10	4	7	2	1
構成比率%	3.3	33.3	13.3	23.3	6.6	3.3

46～50	51～55	56～60	61～65	65歳以上	計	平均年齢
4	0	1	0	0	17	34.1
0	0	0	0	0	13	32.5
4	0	1	0	0	30	32.8
13.3	0	3.3	0	0	100	

(4) 利用者の障害程度(支援)区分(令和2年3月31日時点)

事業名(生活介護)

区分	1	2	3	4	5	区分なし	計	平均区分
男子	0	0	0	1	1	0	2	4.5
女子	0	0	1	1	2	0	4	4.5
計	0	0	1	2	3	0	6	
構成比率%			16.6	32.2	50			

事業名(就労継続B型)

区分	1	2	3	4	5	区分なし	計	平均区分
男子	1	4	5	0	0	5	15	2.4
女子	1	4	1	2	0	1	9	2.5
計	2	8	6	2	0	6	24	2.4
構成比率%	16.8	33.3	25	16.6	0	25	100	

(5) 援護市町村区分

市町村区分	船橋市	東庄町	銚子市	香取市	匝瑳市	その他		計
						県内	県外	
男子	0	1	3	11	1		1	17
女子	0	5	2	6	0			13
合計	0	6	5	17	1		1	30

保護者の状況

保護者区分	親			兄弟姉妹	その他の親族	その他	身寄りなし	計
	両親	父のみ	母のみ					
男子利用者	8	0	6	3	0			17
女子利用者	11	1	0	0	1			13
計	18	1	7	3	1	0	0	30

平均年齢	64.5	62	48.3	53.7	84			
最高年齢	75	62	77	70	84			

3. 職員研修について

ア、 法人事業所内研修

研修会名	対象者	実施日	参加者	備考
法人事務会議	事務職	4/19・7/26	3名	本部
工賃査定会議	支援員	毎月中旬	全支援員	ケース会議
一泊研修旅行	全職員 利用者	9/19~20	全支援員 利用者	秩父

イ、 外部団体等主催研修への参加

主催団体名	研修会名	実施日	参加者	備考
千葉県障害福祉事業課	強度行動障害研修	7/4	2名	
千葉県障害福祉事業課	強度行動障害研修 基礎研修	9/25	2名	
日精研	日精研公開講座	11/9	1名	東洋大学
就労支援センター	食品表示研修	6/4	1名	
千葉県地底障害者福祉協会	給食研修	10/25	1名	
香取保健所	食品講習会	6/19	1名	

4. 事故の発生について *ヒヤリハットを除く

NO	発生年月日	事故の内容	対応	行政への届け出	備考
1	4月26日	作業で畑に自動車で行ったとき。降車中に他利用者がドアを閉めたため、右指を挟む。手の腫れもなく冷やすと晴れも引いた。保護者に連絡。保護者(看護師)も様子を見る。その後問題なし。	作業で降車をするときには職員が最後扉を閉める決まりとする。	あり	

令和元年度

社会福祉法人さざんか会

事業報告(統一版)

事業所名

〔カメラリアハウス〕

1. 令和元年度事業活動重点事項及び成果

(1) カメリアハウス本館建て替え工事へ向けて

ここ数年、建て替え工事の話が挙がっており令和元年度よりいよいよ本格的に動き始めました。耐震構造の図れていない建物であり、築年数も四半世紀となったことと毎年利用希望の声が届いていることから事業の拡大を見据えた建築計画となります。設計会社と現場職員による綿密な打ち合わせにより現場職員から積極的な意見が集められ、より快適な支援が提供できるような設計図が描かれていきました。1階就労継続支援B型利用の方がメインのスペースでは利用者の特性を踏まえてより作業に集中できるような構造となり、大きな課題であった受注製品の保管、搬出入に関してもスムーズな流れが作れるような設計となりました。また本館建物外にあり、決して快適とは言えなかったプレハブ製の製菓スペースを本館に組み入れ、清潔感を第一としてより作業に取り組みやすいような設計を構築しました。その他事務室、防災倉庫、シャワールーム等を日中活動の動線を妨げないような意識をもって設計をしていきました。2階生活介護利用の方がメインのスペースでは以前の建物より広くスペースを取れることを意識し、よりゆったりとした時間を過ごせるような構造となりました。また壁に括り付けの収納スペースや周囲の様子を把握しやすい対面キッチンなど職員にとっても使い勝手の良いつくりとなりました。作業スペースに関しては大きく2つに分け、今後の利用者増員における新グループの活動場所を想定した間取りとなりました。その他にも各職員から提案された細やかなアイデアを活かした仕掛けが多々施されることとなっています。年末に完成予定であるのでそれまでは現住所より離れた借家を使用しながら多少不便な環境での活動となりますが、出来上がる素晴らしいハードに負けないような支援を展開していけるよう職員各自意識をもって支援力の向上を図っていきます。

(2) 新型コロナウイルスへの対応

令和2年に入り急速に威力を増してきた新型コロナウイルス、社会的な大問題となり障害福祉業界も対策が求められました。多くの利用者は清潔感への意識を持つといったことは難しく、手洗い等もおざなりになっていた傾向でしたので手洗いの励行、アルコールスプレー等での手指の消毒、マスク着用可能な方のマスク着用などを職員間の意識として強めていきました。また、検温も徹底し発熱が続いた際には利用を控えるようお願いをしました。体調に変化のない方の利用に関して利用に関する通知等はしませんでした。3月中旬より自主的に休まれる方が多く、特に公共交通機関を利用される方は利用を控える方が多かったようです。幸い行政からの代替サービスの通知が届いていたので各職員で手分けをして対応をし、大幅な減収は避けられることができました。社会問題となり始めた時期にはマスク、消毒用アルコールなどの品薄状態に困窮しましたが様々な手立てで入手し、感染経路となりうる箇所に消毒を施し感染への対応を取ってきました。

元来、年度末においては外出行事などを各グループで開催していたのですが世間の流れと同様に自粛をしてきました。みなさん何かを察してもらえたのかそれに対する混乱等は見られず平穩に過ごすことができていました。日中活動に関しても人が多く集まる場所への外出は避け、感染への予防を図ってきました。

(3) 就労継続支援 B 型事業所見学

昨年度に続き就労継続支援 B 型利用者の事業所見学を行いました。就労継続支援 B 型事業の課題とされている工賃向上を図るには、まず利用者意識の向上が不可欠となります。また各利用者の可能性を広げるといった大きな意味合いも含めて他事業所利用者の仕事への向き合い方などを学んできてもらいました。あまりない外出の機会であるので気分が高まってしまい本来の目的に届かなかった方もいらっしゃいましたが、強く刺激を受けた様子の方もいらっしゃいました。

(4) 製菓作業等への取り組み

製菓担当の職員は令和 2 年度より義務化される食品表示 HACCP についての研修についての研修に数回参加し、難関な表示作成に対応できるよう技術を身に付け建て替え後の製菓作業再開につなげていきます。

建て替え後作業環境が向上することによって今までと違ったアプローチができると思われ、利益率が少しでも高い商品の開発を図るとともに既製品の販売形態を考慮し、より収益を上げられるよう検討をしていきます。

(5) 生活介護事業への取り組み

カメラハウスでは以前より生活介護事業においても自らの持つ能力を最大限に引き出し、それを成果、充足感につなげる方向性で支援してきました。今年度も既存のポスティングで広いエリアをカバーするとともに、振興センターから請け負った「市議会だより」のポスティングをコンスタントに取り入れました。これにより自尊心と健康体を手に入れるとともに最高で年間 122048 円の工賃を得た方がいらっしゃいました。

手工芸品等においても各々の能力を活かし新しい作品を生み出し販売促進につなげていきました。

農作業も引き続きお手伝いをさせていただき様々な経験をされていました。

(6) 他事業所への協力体制

引き続きグループホームに対して幅広く協力体制をとってきました。従来の男性職員の週末宿泊は継続し、他のホームへの宿泊、更に女性職員の早番、遅番と協力をしてきました。そんな中でも職員が顔を合わせる機会が損なわれてしまうと職員間の意思の疎通が阻まれてしまうことに意識を持ち、会議日等を柔軟に設定して機会を確保してきました。また当事業所利用者の希望により GH 変更への橋渡しもしました。

(7) イベント等の開催

諸事情により令和元年度が最後の一泊旅行となってしまいました。例年通り2度に分かれての開催となり、終了を惜しむ声も多々上がっていましたが存分に楽しまれていた様子でした。今後はこれに代わるイベントの開催を検討していたのですが社会情勢の変化により先行き不透明となってしまいました。お花見、歓迎会、バーベキュー大会も令和元年度は開催されましたが令和2年度は未定となります。育成会の役員さんのつながりから「SONY 生命保険」の社員研修会参加のお誘いをいただきました。幕張のホテルにおいて製作品の販売並びに研修会でのステージ登壇という内容で150名以上の方の前で日々の仕事内容などを発表し、またとないような貴重な経験を味わわれました。

2. 職員体制と人材確保(常勤換算数)*小数第2位四捨五入

	管理者	サビ管等	支援員・世話 人・保育士等	看護師	調理員	その他(運転 士等)	計
31年度当初	常勤 1	兼務	常勤 8 非常勤 5 非常勤 (2.8)	非常勤 1 非常勤 (0.1)		非常勤 2 非常勤 (1.4)	常勤 9 非常勤 8 非常勤 (4.3)
男 性	常勤 1	兼務	常勤 4 非常勤 1 非常勤 (0.5)		()	非常勤 1 非常勤 (0.4)	常勤 5 非常勤 2 非常勤 (0.9)
女 性			常勤 4 非常勤 4 非常勤 (2.3)	非常勤 1 非常勤 (0.1)	()	非常勤 1 非常勤 (1)	常勤 4 非常勤 6 非常勤 (3.4)
計	1 (1)	兼務	13 (10.6)	1 (0.1)		2 (1.4)	17 (13.1)
年度中増減			なし	なし		なし	なし
男 性	1	兼務	5			1	7
女 性			8	1		1	10
計	1	兼務	13	1		2	17
令和2年当初	1 (1)	兼務	常勤 6 非常勤 6 (9.4)	非常勤 1 (0.1)		非常勤 2 (1.4)	常勤 7 非常勤 9 (11.9)

施設等利用者の状況

(1) 利用契約者

利用事業名	生活介護	就労継続 B			計
定員	28	12			40
31 年度当初契約者数	30	16			46
年度内新規契約者数	3	0			3
年度内解約者数	1	0			1
年度末契約者数	32	16			48

(2) 利用率

利用事業名	生活介護	就労継続 B			計
年間延契約者数	7,825	3,984			11,809
年間開所日数	249	249			
年間延利用者数	6,995	3,000			9,995
利用率	89.4%	75.3%			84.6%

(3) 利用者の年齢区分(令和 2 年 3 月 31 日時点)

年齢区分	20 才以下	21～25	26～30	31～35	36～40	41～45
男 性	3	6	7	1	3	4
女 性	1	2	2	0	1	2
計	4	8	9	1	4	6
構成比率	8.3%	16.6%	18.8%	2.1%	8.3%	12.5%

46～50	51～55	56～60	61～65	66 歳以上	計	平均年齢
3	3	0	0	2	32	35.9
2	0	3	1	2	16	44.9
5	3	3	1	4	48	38.9
10.4%	6.3%	6.3%	2.1%	8.3%	100%	

(4) 利用者の障害程度(支援)区分(令和 2 年 3 月 31 日時点)

事業名(生活介護)

区分	3	4	5	6	計	平均区分
男 性	1	8	11	3	23	4.7
女 性	2	3	2	2	9	4.4
計	3	11	13	5	32	4.6
構成比率	9.4%	34.4%	40.6%	15.6%	100%	

事業名(就労継続支援B型)

区分	非該当	2	3	4	計	平均区分
男性	1	1	3	4	9	3.0
女性	2	3	1	1	7	1.6
計	3	4	4	5	16	2.5
構成比率	18.8%	25%	25%	31.2%	100%	

(5) 援護市町村区分(令和2年3月31日時点)

市町村区分	船橋市	市川市・習志野市・鎌ヶ谷市・八千代市	東庄町・銚子市・香取市・旭市	その他		計
				県内[千葉、松戸市]	県外	
男性	29	2		1		32
女性	12	3		1		16
計	41	5		2		48
構成比率	85.5%	10.5%		4.0%		100%

3. 保護者の状況

保護者区分	親			兄弟姉妹	その他の親族	その他	身寄りなし	計
	両親	父のみ	母のみ					
男子利用者	26		6					32
女子利用者	8		5	2	1			16
計	34		11	2	1			48
平均年齢	65.5		78	65	18			68
最高年齢	91		93	71	18			93

4. 職員研修について

ア、 法人事業所内研修

研修会名	対象者	実施日	参加者	備考
第一回法人全体研修	全職員	H31年4月6日	9名	理事長講演
第二回法人全体研修	全職員	元年6月29日	8名	ご家族、保護者様からのメッセージ
第三回法人全体研修	全職員	元年11月30日	5名	ケース検討
第四回法人全体研修	全職員	R2年1月25日	8名	サービス向上委員会主催

イ、 外部団体等主催研修への参加

主催団体名	研修会名	実施日	参加者	備考
NPO 法人千葉県障害者就労事業振興センター	食品表示法セミナー	元年6月4日	2名	
全国手をつなぐ育成会連合会	実践発表会	元年6月22日	1名	
NPO法人生活サポート千葉	強度行動障害支援者養成研修（基礎）	元年6月28日 元年7月4日	2名	
にじいろでGO	本人活動	元年6月29日	1名	ひまわり会
NPO 法人千葉県障害者就労事業振興センター	食品表示作成連続講座	元年7月13日、 10月5日、 12月14日	1名	
日本知的障害者福祉協会	全国知的障害関係施設長等研修	元年7月22日、 23日	1名	
千葉県知的障害者福祉協会	施設長、事務長研修会	元年8月7日	1名	
船橋障がい者地域福祉連絡会	第3回船橋障がい者地域福祉研修会	元年9月20日	3名	
NPO 法人千葉県障害者就労事業振興センター	消費税増税に伴う会計研修	元年9月25日	2名	
社会福祉法人千葉県社会福祉事業団	第3回認知症セミナー	元年10月4日	1名	
NPO 法人千葉県障害者就労事業振興センター	実務に役立つExcel講習会	元年10月16日	1名	
船橋市健康福祉局福祉サービス部	地域支援サービス事業報酬改定等説明会	元年11月6日	1名	
NPO 法人千葉 MD エコネット	自分のことを自分のことばで話そう	元年11月17日	1名	ひまわり会
全国手をつなぐ育成会連合会	全国手をつなぐ育成会連合会全国大会	元年11月23日、 24日	1名	ひまわり会
NPO法人生活サポート千葉	強度行動障害支援者養成研修（実践）	元年12月3日	1名	
NPO法人船橋福祉相談協議会	グループホームの昨日・今日・明日	元年12月14日	1名	利用者Tさん登壇
株式会社日本経営	人事評価制度のポイントセミナー	R2年1月22日	1名	
船橋市連絡協議会	船橋が好きこの街で暮らしたい	R2年2月14日	1名	

5. 事故の発生について *ヒヤリハットを除く

NO	発生年月日	事故の内容	今後の対応	行政への届け出	備考
1	4月16日	送迎車両乗車時尿意をもよおした利用者が茂みに隠れて排尿、それを目撃した方が交番へ通報	GH利用の方なので出発の際は用を足すよう依頼	有	
2	4月23日	利用者さんが椅子の足につまずき転倒	ご本人のコンディションを把握し対応を心がける	無	
3	5月7日	公園を散歩中、利用者さんとはぐれてしまい独りの状況を作ってしまった	自分のチームのメンバーを確認してから活動を開始する	無	
4	5月29日	室内にて転倒	足元が不安定な方なので移動時には補助に入ることを徹底	無	
5	7月2日	外履きを履ききれておらず転倒	靴は踵を入れ履けているかを確認してから動き出すよう徹底	無	
6	7月2日	送迎車へ乗車後、着席を確認せずに発進してしまい転倒	着席の確認を徹底	無	
7	7月25日	作業室で段ボールにつまずき転倒	作業中の整理整頓を心掛ける	無	
8	8月21日	散歩中下り坂にて転倒	転倒の恐れがある場面では職員が近くを歩き対応	無	
9	8月28日	送迎中対向車とミラーが衝突し破損	幅の狭い車道ではより意識をもって走行を心掛ける	有	
10	9月6日	不安定になられた利用者が他の利用者に噛みついてしまい、さらに噛みつかれた方が他の方につかみかかる	利用者の心理的状态などを職員間で共有し、未然に防ぐことのできる体制を図る	無	

11	9月17日	移動車両内で利用者が興奮し始め、隣に座っていた利用者につかみかかり噛みつく	当該利用者の車両利用を当面制限するとともに職員間の意識を徹底	無	
12	9月28日	外出時、不安定になられた利用者が他の利用者を押して叩く、被害を受けた利用者も興奮し攻撃した利用者に噛みつく	外出の際は各利用者の状況を把握してから出発、安定剤等を持参されている場合は所持する	無	
13	10月1日	散歩中利用者を見失ってしまう	普段の慣れた道を歩く際にも全体の把握するよう周知	無	
14	11月13日	段差にて転倒	各利用者の精神状態を把握し対応	無	
15	12月5日	車両への乗車時に利用者同士のトラブルから転倒	乗降車の際は突発的な状況にも対応できるポジショニングをとる	無	
16	1月14日	駐車の際、後方民家の柵に衝突してしまう	工事車両の駐車等不測の状況には冷静に対応	無	
17	2月14日	スーパーマーケットにて失禁をしてしまう	トイレに不安のある方は出発時に済ませることを徹底	無	
18	3月5日	室内で自らの足が絡まり転倒	身体面で不安定さが見られた際には声掛けを	無	

令和元年度

社会福祉法人さざんか会

事業報告(統一版)

事業所名〔魔法のランプ(居宅介護部門)〕

1. 令和1年度事業活動重点事項及び成果

(1) 赤字運営解消

- 令和1年10月期より管理者含め6名いたスタッフの内、1名を他事業所へ異動、もう1名が退職となったため、常勤スタッフ3名と事務員1名で運営をしています。
- 空白時間については、少しずつではありますが、平日の日中サービスも入ってくるようになっていきます。また、年度途中より土、日、祝日等のサービス時の利用を短時間で抑えて頂くようお願いをして、協力をして頂いて収益アップに繋がっています。
- 新規事業「放課後等デイサービス」「日中一時支援事業」については、収益が見込めないことと、常勤スタッフの縮小によりやや難しくなったために断念しています。
- 移動支援従業者養成研修の実施については、常勤スタッフの人員不足から準備等ができない為、断念しています。

(2) 新規利用者の受け入れ

- 日中のサービスを入れる為に、新規利用者の受け入れをしています。

(3) ヘルパー育成

- 今年度は、登録ヘルパーの育成について、研修を4回実施して取り組んでおります。内容については、項目5の職員研修内の「スタッフ内部研修」に記載しています。

(4) 成果について

- 令和元年10月にスタッフを削減し事業を縮小することになりましたが、スタッフ及び、ヘルパーのサービスを調整することで上向きの成果を得ることができました。

2. 職員体制と人材確保(常勤換算数)※小数点1位四捨五入

	管理者	サビ提等	支援員・世話人・保育士等	看護師	調理員・栄養士 事務員	その他(登録ヘルパー等)	計
31年度当初	1	2	5		1	10	19
男子	1 <small>札幌、支援員事務</small>	2 <small>支援員兼務</small>	3 (1)	()	()	2 (2)	8 (3)
女子			2 (0)	()	1 (1)	8 (8)	11 (9)
計	1	2	5		1	10	19
年度中増減			-2			-1	
男子	1 <small>札幌、支援員事務</small>	2 <small>支援員兼務</small>	2 (0)	()	()	2 (2)	7 (2)
女子			1 (0)	()	1 (1)	7 (7)	9 (8)

計	1	2	3		1	9	16
年度中増減			-2				
2年度当初	1	2	3		1	9	16
			(0)	()	(1)	(9)	(10)

*非常勤職員、臨時職員、パート職員については人数を()内に別記する。

※ 現在も男性の登録ヘルパーさんが不足している状況で、今後も増員していきたい。

3. 施設等利用者の状況

(1) 利用契約者

利用事業名	障害福祉サービス事業				地域生活 支援事業	計
	居宅介護	重度訪問介護	行動援護	同行援護	移動支援	
定員	—	—	—	—	—	—
31年度当初契約者数	60	7	27	4	163	261
年度内新規契約者数	1	1	0	0	0	0
年度内解約者数	12	0	1	0	6	19
年度末契約者数	49	8	26	4	157	243

※ 障害福祉サービス事業と地域生活支援事業の契約重複者含む

(2) 利用率

利用事業名	居宅介護	重度訪問介護	行動援護	同行援護	移動支援	計
年間利用者数	176	30	214	25	743	1,188
年間開所日数	365	365	365	365	365	365
年間延利用者数	277	74	477	35	1,486	2,349
利用率	0.79%	1.37%	0.68%	0.5%	0.6%	1.57%

(3) 利用者の年齢区分(令和2年3月31日時点)

年齢区分	0~5	6~10	11~15	16~18	19~20	21~25
男子	1	0	1	2	3	20
女子	0	0	0	1	0	3
計	1	0	1	3	3	23
構成比率	0.64%	0%	0.64%	1.91%	1.91%	14.65%

26~30	31~35	36~40	41~45	46~50	51~55	56~60
17	5	12	23	19	10	2
2	3	4	7	14	4	1
19	8	16	30	33	14	3
12.10%	5.09%	10.19%	19.11%	21.02%	8.92%	1.91%

61～65	65歳以上				計	平均年齢
0	2				117	
1	0				40	
1	2				157	
0.64%	1.27%				100%	

(4) 利用者の障害支援区分(令和2年3月31日時点)

事業名(居宅介護、重度訪問介護、行動援護、同行援護)

区分	なし	2	3	4	5	6	計	平均区分
男子	0	0	3	6	17	19	45	5.2
女子	0	1	2	2	4	7	16	4.9
計	0	1	5	8	21	26	61	5.1
構成比率	0%	2%	8%	13%	34%	43%	100%	

(5) 援護市町村区分

市町村区分	船橋市	市川市・習志野市・鎌ヶ谷市・八千代市	東庄町・銚子市・香取市・旭市	その他		計
				県内	県外	
男子(成人)	114	1				115
女子(成人)	36			2		38
男子(児童)	4					4
女子(児童)	0					0
合計	154	1		2		157

4. 保護者の状況

保護者区分	親			兄弟姉妹	その他の親族	その他	身寄りなし	計
	両親	父のみ	母のみ					
男子利用者	79	4	26	3	1	4		117
女子利用者	21	2	16	1	0	0		40
計	100	6	42	4	1	4		157
平均年齢								
最高年齢								

5. 職員研修について

ア、法人事業所内研修

研修会名	対象者	実施日	参加者	備考
第1回合同研修会	法人職員	平成31年 4月6日	4人	理事長による「さざんか会について」
第2回合同研修会	直接処遇 スタッフ	令和元年 6月29日	5人	さざんか会利用者の保護者への事前質問に対する回答等
第3回合同研修会	直接処遇 スタッフ	令和元年 11月30日	1人	事例検討によるグループディスカッション

第4回合同研修会	直接処遇 スタッフ	令和元年 1月25日	3人	サービス向上委員会主催
----------	--------------	---------------	----	-------------

スタッフ内部研修				
第1回 ヘルパー会議	直接処遇スタ ッフ・登録ヘル パー	令和元年 6月15日	11人	事例検討・意思決定支援
第2回 ヘルパー会議	直接処遇スタ ッフ・登録ヘル パー	令和元年 9月14日	10人	消費税増加による軽減税率に よるサービス対応について
第3回 ヘルパー会議	直接処遇スタ ッフ・登録ヘル パー	令和元年 12月14日	9人	発達障害について「自分の取扱 説明書を書いてみよう」

イ、 外部団体等主催研修への参加

主催団体名	研修会名	実施日	参加者	備考

6. 事故の発生について *ヒヤリハットを除く

NO	発生日月日	事故の内容	今後の対応	行政への届け出	備考
1	5月4日(土)	サービス中に一般女 性の胸に触れた	距離を置くなど状況確認 を徹底する。	無	
2	7月21日 (日)	福祉有償運送中に て、ご利用様が乗 車中立ち上がった為 の車内転倒	ブレーキをかけるタイミ ングで後部座席からシー トベルトを外し前へ乗り 出されたので、シートベル トの着用の声掛けをする。	無	
3	11月26日 (火)	階段昇降中の転倒に よる怪我	足元が見えづらい道だ つたのでライトなどを用 意する。	無	
4	12月5日 (水)	民家のインターフォ ンを押ししてしまった	インターフォンを押し たい家が決まっているよ うなので、その家を通り 過ぎるまで特に用心す る。	無	
5	12月11日 (水)	療育手帳一時紛失	必ず「療育手帳、お財 布、連絡ノート」の3点 セットの確認を怠らな いように徹底する。	無	
6	1月12日 (日)	ご利用様の私物一 時紛失	ご本人様が自分のカバ ンにしまうまでを確認 してから移動する。	無	
7	1月14日 (火)	転倒による怪我	ご利用様の年齢も考 慮し、今後はタクシーを 利用する	無	

令和元年度

社会福祉法人さざんか会
事業報告(統一版)

事業所名〔DDホームズ〕

1. 令和元年度事業活動重点事項及び成果

(1) 支援のあり方

一人ひとりの意思が尊重され「自分らしく生きる」ことや、目の前の障害のあるご本人の思いに寄り添い「その人らしい暮らし」を作ることが視点とする。そんな支援のあり方を実践してきました。また、個々の特性や状況を把握し、最も必要と思われるニーズを選択し反映させる為に、個別支援計画で具体的なことを記述し、その都度立ち返り、検証することにも努めてきました。

(2) 安全面について

一般的に生活の場面での事故などは、家屋内（特に水回り）での発症率が高いとされています。移動時における僅かな段差への注意など、建物の構造上の問題においても配慮してきました（危険が予測される箇所へのソフトラバーの設置等々）。しかしながら、ホームによっては打撲や転倒などの報告を受けています。今後はより改善されるように対処していきたいと思えます。

(3) 健康について

日々の調子については、親御さんや看護職員、日中関わっているスタッフとの情報交換を経て、体調の変化等に目を向けてきました。今後は年齢を重ねるにつれて、健康面については更なる配慮が必要になってきますので、寒暖の差や季節ごとにきめ細やかな支援が求められると考えます。充実した日常生活をつつがなく送るには、健康でいられることが最も大切だと考えます。

また、ホームごとに個々の掛かりつけの病院、連絡先、主治医等をまとめた一覧表を掲示し、日頃から緊急時に備えています。

(4) 食事提供について

平成 23 年の初夏に食中毒の発生があり、短期間ながら閉鎖を余儀なくされたホームがありました。その苦い経験を踏まえ、専門家を招いての食品衛生講習を実施しました。ホームに携わる全員が受講することで、調理の際の安心安全の意識を高めてきました。おいしく食事を摂ることは、健康で楽しく生活を送る上での基本となります。その点を踏まえながら、各ホームでバラエティに富んだ食の提供が出来たのではないかと思います。

(5) 防災と設備について

高齢者も含めグループホームの火災による死亡事故が起きている昨今では、より高い意識をもって防災対策に取り組んでいく必要があります。災害時に備え、消防計画に基づき、災害の予防と人命の安全を最優先に考えています。法人内の各事業所が集まったの防災会議の実施や、各ホーム年 2 回の避難訓練の実施、日常の点検、非常食等の管理、設備面での取り組みも行ってきました。また、消防の立ち入り調査も順次実施されてきました。その際の指摘事項に関しては、提携の防災関連会社のバックアップを受けつつ、その都度対処してきました。

2. 職員体制と人材確保(常勤換算数)※小数点1位四捨五入

	管理者	サビ管等	支援員・世話 人・保育士等	看護師	調理員・栄養士	その他(運転 士等)	計
31年度当初	1	3	25			3	32
男子							
常勤	1	1	4	0	0	0	6
非常勤			7				7
(常勤換算)			(4.4)				(4.4)
女子							
常勤		1	2				3
非常勤		1	12			3	13
(常勤換算)		(1)	(5.7)				(6.7)
計	1	3	25	0	0	3	32
年度中増減		-1	-2				-3
男子							
常勤	1	1	5				7
非常勤			6				6
(常勤換算)			(4.3)				(4.3)
女子							
常勤			1				1
非常勤		1	9			3	13
(常勤換算)		(0.5)	(4.3)				(4.3)
計	1	2(0.5)	21(8.6)			3	27(8.6)
2年度当初							
常勤	1	1	6				8
非常勤		1	16				17
(常勤換算)		(0.5)	(8.6)				(9.1)

3. 施設等利用者の状況

(1) 利用契約者 令和2年3月31日現在

利用事業名	おり家他 8か所	さざんか荘 ・まあしい 5月まで	すずらん 10月まで	計
定員	35	7	6	48
31年度当初契約者数	35	7	2	44
年度内新規契約者数	0	0	0	0
年度内解約者数	1	7	2	10
年度末契約者数	34	0	0	34

(2) 利用率

利用事業名	おり家他 8か所	さざんか荘 ・まあしい 5月まで	すずらん 10月まで	計
年間延契約者数	420	14	14	448
年間開所日数	12810	427	428	13665
年間延利用者数	9474	378	337	10189
利用率	73.9%	88.5%	78.7%	74.5%

(3) 利用者の年齢区分 (令和2年3月31日時点)

年齢区分	～24歳	25～29	30～34	35～39	40～44	45～49
男子	1	1	1	1	4	11
女子	0	0	0	0	0	0
計	2	0	2	3	3	17
構成比率	3%	3%	3%	3%	12%	32%

50～54	55～59	60～64	65～69	70歳～	計	平均年齢
11	2	0	0	2	34	48.0
0	2	0	0	0	0	-
11	2	0	1	1	42	48.0
32%	6%	0%	0%	6%	100%	

(4) 利用者の障害支援区分 (令和2年3月31日時点)

事業名 (共同生活援助)

区分	なし	1	2	3	4	5	6	計	平均区分
男子	2	0	4	6	6	9	7	34	4.0
女子	0	0	0	0	0	0	0	0	-
計	2	0	4	6	9	12	9	42	4.0
構成比率	6%	0%	12%	18%	18%	25%	21%	100%	

(5) 援護市町村区分

市町村区分	船橋市	市川市・習志野市・鎌ヶ谷市・八千代市	東庄町・銚子市・香取市・旭市	その他		計
				県内	県外	
	34	0	0			34
						100%

(6)保護者の状況

保護者区分	親			兄弟姉妹	その他の親族	その他	身寄りなし	計
	両親	父のみ	母のみ					
男子利用者	16	1	6	8	2		1	34
女子利用者								
計	16	1	6	8	2		1	34
平均年齢				—	—	—	—	
最高年齢				—	—	—	—	

4.事故報告について（*行政報告事項）

NO	発生年月日	事故の内容	今後の対応	備考
1	H31.4.10	湯船から出る際、体勢を崩し転倒。顎をぶつけ下唇を裂傷し、差し歯1本が抜け落ちた。	立位が難しい方なので、間近でしっかりと支える。特に浴室は滑りやすい場所なので、より一層の配慮を心がける。	傷の治りは早かったものの、新たに差し歯を作ることは難しく、断念。
2	H31.4.20	入居者同士のトラブルの末、一人が転倒。傍らにあった椅子に左目の下を打ちつけ、腫れと共にアザができた。	危険が予測される場合は両者の間に割って入っても、怪我を未然に防ぐ。	整形外科で骨の異常は見られなかったが、眼科の受診を勧められ通院。結果、異常なし。
3	R1.7.9	高根公団駅で降りるはずが、高根木戸駅で列車と線路の間にカードを落してしまい、途中下車。列車が去った後、線路に下りた模様。1分ほど列車を止めてしまった。	お一人での通所の為、付き添いはいない分、ご本人に充分注意を促す。	障害を持っているということ、列車を止めたのが1分ほどであった為、お咎めなし。
4	R1.9.10	ニチイ職員の同行援護サービス中、発作により転倒。両手指に擦過傷を負う。歩行の様子を見ると足を引きずっていたので、後日、白井病院へ。レントゲンを撮るも骨には異常なし。しかし9/13には左足の甲全体が腫れていた為、セコメディック病院へ。診断の結果、骨にひびが入っていた。	ニチイと連携し、発作時の対応等、詳しくお伝えする。	

5	R1.9.20	朝、トイレの便座に顔を打ち付けて左目の上に裂傷を負う（ご本人談）。そのまま日中活動先のゆたか福祉苑に向い、その日の午後に通院。医療用ホチキスで一針処置され、1週間後に抜鉤。	見守ることが出来る環境作りが大切であると考え	世話人は食器を洗っていた為、事故の瞬間の目視はしていない。
---	---------	----------------------------------------------------------------------------------------	------------------------	-------------------------------

5職員研修について

① 法人事業所内研修

研修会名	対象者	実施年月日	参加者数	備考
私たちにできたこと、そしてこれから	常勤及び固定給職員	H31年4月6日	4名	辞令交付式にて
コミュニケーション実践編	全職員	R元年6月14日	8名	のまのまホームズ合同
育成会保護者講演	全職員	R元年6月29日	3名	
食中毒について	全職員	R元年7月19日	6名	のまのまホームズ合同
消火器、心肺蘇生について	全職員	R元年10月11日	4名	のまのま合同、船橋北消防署主導
虐待防止	全職員	R2年1月25日	2名	法人全体合同研修
日常生活の経験から見えてくるもの	全職員	R2年2月14日	9名	のまのまホームズ合同

② 外部団体等主催研修への参加

主催団体名	研修会名	実施日	参加者数	備考
日本知的障害者福祉協会	グループホームの果たすべき役割、進むべき方向性	R1.8/29.30	1名	
日本グループホーム学会	一人ひとりの暮らしを支えるために	R1.11/9.10	2名	
船橋福祉相談協議会	グループホームの昨日・今日・明日	R1.12/14	1名	

以上

令和元年度

社会福祉法人さざんか会
事業報告(統一版)

事業所名〔のまのまホームズ〕

令和元年度を振り返る

(1) 入居者支援と職員体制

昨年 DD ホームズから3カ所（まあいし・さざんか荘・すずらん）を、のまのまホームズに移管しました。また新規採用者1名、「ゆたか福祉苑」から1名、「けいよう」から1名、また「魔法のランプ」からも事業見直しに伴い、常勤職員が増えました。

GHという小規模事業所の点在で、面としての職員間のまとまりが持ちにくく、「自己流・自我流・自己満足」にならぬように留意する必要があります。「ヒヤリ」も「ハット」しなくなってしまうような落とし穴があることを職員間で共有したいと思います。

(2) 職員研修の充実

今年度は常勤職員が増え、特に若い世代の職員に各種研修を受講していただきました。

「井の中の蛙にならぬよう」、「同じ仲間が悩みながら仕事に向き合っている」等、外部研修の受講により研修内容だけでなく、内面的な変化にも期待ができました。

(3) 新型コロナウイルス感染症拡大

現在も進行形である新型コロナウイルス感染症感染拡大により、職員自身の健康管理、業務上での衛生管理面での意識の向上は不可欠なものとなりました。変則的な勤務ですので、職員自身の自己管理だけでは不足する面もありますので、心身ともに無理がないように職員の業務管理への配慮は必要と思われれます。

(4) 定員の充足

(1)により欠員状態のGHを引き継ぎましたので、当然運営面で大きな課題が生じています。新型コロナウイルス感染症感染拡大に伴い、定員充足には時間を要するかもしれませんが、できるだけ早い時期に定員を充足する予定でいます。

1.職員体制と人材確保(常勤換算数)※数値2位四捨五入

	管理者	サビ管	世話人	生活支援員	計
31 年度当初	1	1	6 (7)	10 (6.1)	18(13.1)
男 性 常勤 非常勤 (常勤換算)	1 (とらのこ兼務)	1 ※世話人兼務	4	1 (1.0)	6 1 (1.0)
女 性 常勤 非常勤 (常勤換算)			3	1 13 (6.9)	4 13 (6.9)
計	1	1	7	14 (7.9)	23. (7.9)
年度中増減				+2	
男 性					
女 性				3(2.5)	3(2.5)
計				3(2.5)	3(2.5)
2年4月	1	2 ※世話人兼務	6	14 (7.9)	23 (7.9)

2.施設等利用者の状況

(1)利用契約者

利用事業名	ときわ	シャントニオ 10月開所	たんご	にこにこ	まあしい 6月より	さざんか荘 6月より	すずらん ケア付型 11月より	計
定員	5	6	7	5	3	4	7	36
1年度当初契約者	5	6	7	2				20
年度内新規契約者数	0	0	0	3	3	4	3	11
年度内解約者数		4						4
年度末契約者数	5	0	7	5	3	4	3	27

(2)利用率

利用事業名	ときわ	シャントニオ 10月開所	たんご	にこにこ	まあしい 6月より	さざんか荘 6月より	すずらん ケア付型 11月より	計
年間契約者数	60	36	84	48	20	40	12	300
年間開所日数	1830	960	2562	1464	915	1220	456	9407
年間延べ利用数	1587	960	2506	1115	855	925	353	8301
利用率(%)	86.7%	100%	97.8%	76.1%	93.4%	75.8%	77.4%	88.2%

(3)利用者の年齢区分(令和2年3月31日時点)

年齢区分	20~25	26~30	31~40	41~50	51~60	61~	計
男性	3	1	4	4	3	0	15
女性	0	0	4	5	2	1	12
計	3	1	8	9	5	1	27
構成比率	11%	4%	19%	40%	19%	7%	100%

(4)利用者の障害程度(支援)区分 (令和2年3月31日時点)

事業名(共同生活援助)

区分	2	3	4	5	6	計	平均区分
男性			5	6	4	15	5.0
女性			5	4	3	12	4.8
計			10	10	7	27	
構成比率			37%	37%	26%	100%	

(5)日中活動

	男 性	女 性	合 計
生活介護	15	12	27
就 労		0	
その他		0	
合 計	15	12	27

(6)援護市町村区分

	男性	女性	合計
船橋市	14	11	25
市川市			
千葉市	1	1	2
合 計	15	12	27

3.保護者の状況

	男 性	女 性	合 計
親	13	8	21
兄弟	1	3	4
その他	1	1	2
なし			0
合 計	15	12	27

4.職員研修について

①法人事業所内研修

研修会名	対象者	実施日	参加者	備考
さざんか会法人事業所内研修	支援職	令和2年1月25日		
さざんか会 GH 合同研修会	支援職	令和2年10月11日		
さざんか会 GH 合同研修会	支援職	令和2年2月15日		

②外部研修

主催団体名	研修会名	実施日	参加者	備考
	スローコミュニケーション 2019	令和元年9月8日	1名	
千葉県障害福祉事業課	千葉県強度行動障害支援者 研修	9月6日、11日 12月3,4日	3名	
	第1回障害者虐待防止研修	9月10日	2名	
日本グループホーム学会	日本 GH 学会全国大会	11月9、10日	1名	

5.事故の発生について *ヒヤリハットを除く

NO	発生年月日	事故の内容	今後の対応	行政への届け出	備考
1	令和元年 8月15日	転倒	ご家族に連絡後、会議を行い 今後に備える。	無	
2	11月19日	入居者ケガ 髭剃り中唇 を切る	ご家族に連絡後、会議を行い 今後に備える。	無	
3	11月22日	会計の間違い2件	ご家族に連絡後、会議を行い 今後に備える。	無	
4	11月25日	入居者のケガ 転倒によ る膝擦過傷	ご家族に連絡後、会議を行い 今後に備える。	無	
5	12月18日	入居者によるホーム壁破 損について	ご家族に連絡後、会議を行い 今後に備える。	無	
6		肩の脱臼	ご家族に連絡後、会議を行い今 後に備える。	有	
7	12月26日	深爪による出血	ご家族に連絡後、会議を行い 今後に備える。	無	
8	12月27日	指にあざ	ご家族に連絡後、会議を行い 今後に備える。	無	
9	12月30日	背中に擦過傷	ご家族に連絡後、会議を行い 今後に備える。	無	
10	1月7日	居室窓ガラス破損	ご家族に連絡後、会議を行い 今後に備える。	無	
11	1月18日	指を扉に挟む	ご家族に連絡後、会議を行い 今後に備える。	無	
12	1月18日	誤 薬	ご家族に連絡後、会議を行い 今後に備える。	無	
13	1月25日	顔面擦過傷	ご家族に連絡後、会議を行い 今後に備える。	無	
14	2月1日	許可なく写真撮影	ご家族に連絡後、会議を行い 今後に備える。	無	
15	2月15日	転倒による擦過傷	ご家族に連絡後、会議を行い 今後に備える。	無	
16	2月28日	肩の脱臼	手術後のケアについて会議を 行いました。	有	
17	3月3日	道路への飛び出し	ご家族に連絡後、会議を行い 今後に備える。	無	
18	3月13日	肩の脱臼	ご家族に連絡後、会議を行い 今後に備える。	有	

令和元年度

社会福祉法人さざんか会
事業報告(統一版)

事業所名〔 野の花 〕

1. 令和元年度事業活動重点事項及び成果

(1) 5年目を迎えて

令和元年9月1日5年目を迎えました。世話人も利用者も日々の生活を共に楽しく過ごしている様子が伺えます。令和元年度当初、利用者5名でスタートしましたが10月に利用者Kさんが亡くなりました。とても悲しい出来事でホーム全体が悲しみに包まれました。また、3月には世話人1名が退職しました。開所当時から支えてくれており尽力していただきました。人の動きがあった1年でした。

(2) 食事提供について

配食サービスの利用は引き続きしておりますが、今年度も引き続き笹川なずな工房のパンを食事時に提供してきました。利用者がまず喜んでくれており、笹川なずな工房を利用している利用者さんにとっては自分で作ったパンやジャムが食卓に並びことで更に食事に対する楽しみが増えた事と感じます。世話人さんのそれぞれのメニューも好評で継続していきたいと思えます。

(3) 安全面について

日中活動の場へ移動する際の交通安全に気を付ける事から始まり、入浴や掃除ありとあらゆる生活の場面で危険はあります。ヒヤリハットを活用し、業務日誌とは別にノートを用意して世話人の業務中での出来事など何気ない事も含めて書いてもらうようにしております。そこから直していけることも多くあり、私自身も未然に防げるように努めております。しかし、今年度は外食中に利用者がてんかん発作から食べ物をのどに詰まらせ死に至るいたましい出来事がありました。安全にはどれだけ配慮を重ねても足りない事とより丁寧な仕事をして行きたいと思えます。

(4) 健康管理について

健康面については、今年度は定期通院が増えた年でもありました。現在も加療継続中ではありますが、今後通院が減る事は無いと考えますと、日頃から気を付けていく事で病気を未然に防ぐこともできると思えます。食事面、生活面お風呂の入り方一つとっても健康を害する事もありますので改めて利用者と考える機会となりました。令和元年度1月に流行性疾患に罹患した利用者がありましたが完全個室対応をする事で他の利用者には遷る事はありませんでした。

(5) 防災と設備について

次年度より障害程度区分の高い利用者の方も利用できるように、北総育成園より協力して頂きホームにスプリンクラーを設置して頂きました。障害の重い利用者が利用する事でより防災意識を高めるために避難訓練の実施、防災設備の点検確認、防災備品の充実化をしっかりと整えていきたいと思えます。

2. 職員体制と人材確保(常勤換算数)※小数点1位四捨五入

	管理者	サビ管等	支援員・世話 人・保育士等	看護師	調理員・栄養士	その他(運転士 等)	計
元年度当初	1	1	4				6
男子	1	1	1 ()	()	()	()	2 ()
女子			(3)	()	()	()	(3)
計	1	(1)	1 (3)				2 (3)
年度中増減	0	0	-1				-1
男子			()	()	()	()	()
女子			(- 1)	()	()	()	(-1)
計	1	1	1				3
2年度当初	1	1	1 (2)	()	()	()	3 (2)

*非常勤職員、臨時職員、パート職員については人数を()内に別記する。

3. 施設等利用者の状況

(1) 利用契約者

利用事業名	野の花				計
定員	5				5
元年度当初契約者数	4				4
年度内新規契約者数	0				0
年度内解約者数	1				1
年度末契約者数	1				1

(2) 利用率

利用事業名	野の花				計
年間延契約者数	5人				5人
年間開所日数	366日				366日
年間延利用者数	1,623人				1,623人
利用率	89.0%				89.0%

(3)利用者の年齢区分(令和2年3月31日時点)

年齢区分	20才未満	21～25	26～30	31～35	36～40	41～45
男子		1		1		
女子						
計		1		1		
構成比率		25%		25%		

46～50	51～55	56～60	61～65	65歳以上	計	平均年齢
1			1		4	42.3
1			1		4	42.3
25%			25%		100%	

(4)利用者の障害程度(支援)区分(令和2年3月31日時点)

事業名(共同生活援助)

区分	3	4	5	6	計	平均区分
男子	1	0	3		4	4
女子						
計						
構成比率	20%		80%		100%	

事業名()

区分					計	平均区分
男子						
女子						
計						
構成比率						

(5)援護市町村区分

市町村区分	船橋市	市川市・習志野市・鎌ヶ谷市・八千代市	東庄町・銚子市・香取市・旭市・匝瑳市	その他		計
				県内	県外	
男子			3		1	4
計			3		1	4

4. 保護者の状況

保護者区分	親			兄弟姉妹	その他の親族	その他	身寄りなし	計
	両親	父のみ	母のみ					
男子利用者	1		1	1			1	4
女子利用者								
計								
平均年齢								
最高年齢								

5. 職員研修について

ア、 法人事業所内研修

研修会名	対象者	実施日	参加者	備考

イ、 外部団体等主催研修への参加

主催団体名	研修会名	実施日	参加者	備考
全国GH学会	第16回GH全国大会	令和元年11月9～10日	1人	
香取圏域GH	GH支援員対象研修	令和元年11月12日	1人	
千葉県グループホーム学会	千葉県GH大会	令和2年1月25日	1人	

6. 事故の発生について *ヒヤリハットを除く

NO	発生年月日	事故の内容	今後の対応	行政への届け出	備考
1	令和元年 10月26日	外食中に利用者が 焼き肉をのどに詰 まらせて窒息。 救急搬送したが死 亡した。	食事、入浴生活の中にお いてリスクはどこにで もあるのもので一つずつ丁 寧な支援をしていく。	報告済	

令和元年度

社会福祉法人さざんか会
事業報告(統一版)

さざんか相談

事業所名 〔魔法のランプ相談〕
〔とらのこキッズ相談〕
〔の ま る 相 談〕

(1) 新規の方の受け入れ

時々、新規の方からお問合せをいただきますが、受け入れが困難な状態が続いています。これは市内の他の相談支援事業所も同様で、年々数か所ずつ事業所数は増えてはいますが、障害種別によりどうしても偏りができてしまっています。本来であれば、お断りせずに地域で困っている方に手を差し伸べ、力になりたいところですが、新規の方を受け入れるには、相談支援専門員の数を増やさなければ難しいのが現状です。

(2) 利用者さんのニーズの多様化と各関係機関との連携

以前は、ご本人やご家族の高齢化に向けて自立するためのサービスを希望される方が多かったのですが、最近のご本人がまだ若く、ご家族も対応に苦慮されていないような方が、居住系のサービスを希望される事も増えてきました。また、ご家族はもとよりご本人も高齢を迎えているケースも多く、中には介護面でのニーズが強かったり、医療的なケアを必要とされていたりと、障害福祉サービスだけでは対応しきれないケースも出てきました。その為、他法人事業所の相談支援専門員の方に情報を提供していただいたり、基幹相談支援センターに相談したりする機会も増えてきています。今後も更に関係機関と顔の見える関係作りをして、連携を図りながら、より良い支援を提供できるようにしていきたいと思っております。

(3) 相談支援事業における体制作り

現在、2名の相談支援専門員(内1名は兼務)で事業を行っていますが、この体制のままだと、増収は見込めません。もともとこの事業は、単独では採算をとることは不可能と言わざるを得ず、同法人の他事業所に支えてもらわなければ運営は成り立たない状況です。

ケースによっては、サービス利用計画書の作成や定期的なモニタリングの業務以外に、頻繁にかかってくる電話やメールの対応、通院の付き添い(ご本人の希望により)郵便物等の確認、近隣の方とのトラブルの対応、休日や夜間における支援等々業務内容は多岐にわたり時間も要します。その為、今の2名体制では限界があり、相談支援業務に携わる人を増やすことを検討していただきたいと思います。

(4) 船橋市地域生活支援拠点システム「あんしんねっと船橋」

昨年10月から船橋市地域生活支援拠点システムとして、「あんしんねっと船橋」が運用を開始しました。

相談支援の業務をする中で、ご家族は緊急時の事が心配と口を揃えて仰います。実際緊急時には、相談支援専門員があちこちに連絡をして対応していただけたところを探すのですが、ケースによってはかなりの労力が必要になります。時には、相談支援専門員だけでは見つけられず行政にお願いするケースもありました。今回、

「あんしんねっと船橋」のシステムができた事により、ご本人やご家族が安心して地域で生活できることは勿論ですが、相談専門員としてもとても心強く思っています。まだ5か月程しか経っていないので、関わる機会はありませんでしたが、今後は相談支援事業所として、協力しあいながら障がいのある方やご家族を地域で支えていきたいと思えます。

(4) 新型コロナウイルスにおける影響

今年2月より新型コロナウイルスが世界規模で拡大し、3月からできる限りご自宅及び事業所等の訪問を控える策を取りました。概ね電話連絡で聞き取り等は済ませる事ができたましたが、中にはどうしても訪問せざるを得ないケースもありました。

事業所によっては、通所系事業所が休業しご自宅での対応が困難、またはご本人の生活リズムが崩れてしまうケースも散見されました。しかし、そのための一時的なサービス事業所へ繋げることができませんでした。また、病院に入院されている方もいらっしゃいましたが病院からの指示で面会ができなくなってしまいました。

今後も暫くの間はこのような状況が続くかと思いますが、利用者さんにできる限り支障がないよう配慮して感染予防に努めながら、支援して行きたいと思えます。

1. 職員体制

管理者 : 古川 世志恵

相談支援専門員 : 古川 世志恵 (けいよう管理者兼務)
高嶋 伸吾

2. 施設等利用者の状況

(1) 利用契約者 125名

(内訳 知的:107名 精神:7名 身体:1名 重複:10名)

3. 職員研修について

ア、 外部団体等主催研修への参加

主催団体名	研修会名	実施日	参加者	備考
船橋障害者相談支援事業所連絡協議会	計画相談に関わる行政説明やサービス利用計画書の作成について	6月28日	2名	
千葉県知的障害者福祉協会相談支援部会	介護保険・ケアマネとの連携について	8月8日	1名	
船橋障害者相談支援事業所連絡協議会	千葉刑務所見学会	11月19日	1名	
千葉県	精神障害者の障害特性と支援技法を学ぶ研修	1月20日 1月30日	1名	体制加算の要件となる研修

令和元年度事業活動報告

障害児相談支援事業（事業所番号 1272800101）

特定相談支援事業（事業所番号 1232800241）

1. 事業概要

管理者/相談支援専門員：中川 公二（のまのまホームズ管理者兼務）

障害児相談支援事業

契約者数：114名（未就学児童：10名 小学生：98名 中学生3名 高校生3名）

特定相談支援事業 契約者数：0名

○現状課題

・昨年度同様に保護者において「相談支援事業」という障害児への福祉サービスとの認識が非常に低い。→通所支援サービスを利用するための「切符売り場」みたいな存在。

→保護者とサービス事業所で進行してしまう。

・事業所間及びサービス調整会議の開催が難しい。（保護者の就労を含めて）

・保護者には土日曜日の訪問、早朝訪問（母親の就業前）、出先での訪問等、さまざまなアプローチが必要。

・本当に必要な日常生活上の「基本相談」「家族支援」が報酬上評価されない制度設計。

⇒行動面での障害 不登校 夫婦間 兄弟 失業 病気 介護

・医療的ケアが必要な子どもとその家族への支援が明らかに不足している。

・障害児への地域生活拠点事業のような面的整備での仕掛け。

・今後も児童専門の相談支援事業所として実施。（相談員増を模索）

⇒令和2年7月31日をもって特定相談支援事業は廃止致します。

令和元年度 相談支援事業報告

契約者数（計画相談）

男性4名 女性5名 合計9名

すでに長年にわたり障害福祉サービスを利用されている方、特別支援学校を卒業されて間もない方と幅広い年齢層の利用者がおられます。

お一人おひとりの今後の人生における目標に向かうお手伝いや生活上における相談に対して、本人に寄り添った支援を心がけて来年度も業務にあたっていきたいと考えます。また、各種研修にも積極的に参加し、相談技術の向上に努め、担当件数も徐々に増やしていきたいと考えます。

令和2年3月 安孫子 登